
みずほ経済・金融ウィークリー

2021.10.18

みずほリサーチ&テクノロジーズ



先週の内外経済・金融市場動向・評価 & 今週の注目点

【先週の内外経済・金融市場動向・評価】

- 世界の感染者数は減少傾向。日本でも全国的に感染者数が減少。日本は10月に入り人出が戻りつつあるが、まだ人出水準は低く、足元では感染再拡大のリスクは小さい
- 米国の9月コアCPIでは前月比の伸びの加速を確認、今後のインフレ上振れ圧力は高まる方向。米国の9月小売統計は、自動車除く財消費の好調を示唆する内容。外食売上は下振れたが10月に復調へ。8月ユーロ圏の鉱工業生産は3カ月ぶりに減少。供給制約に伴う自動車とその関連産業の減産が背景に。中国の9月PPIは上昇傾向が続く。商品価格の高止まりや電力供給制限を背景とした一部産業での生産減が影響
- 日本の9月景気ウォッチャー、足元低水準も緊急事態宣言解除等で先行き判断が大幅改善
- ドル円相場は、米金利上昇に加え、主要国株式市場の上昇によるリスクオンムードを背景に、対円でドルが買われ2018年11月以来の水準まで円安・ドル高が進展

【今週の注目点】

- 米国の供給制約問題、とりわけ9月住宅着工・販売統計と10月ベージュブックが注目点。日本の9月貿易統計は、輸出面では国内の自動車減産の影響、輸入面では東南アジアからの部品調達難や、商品価格高騰による輸入額増加の影響が注目される

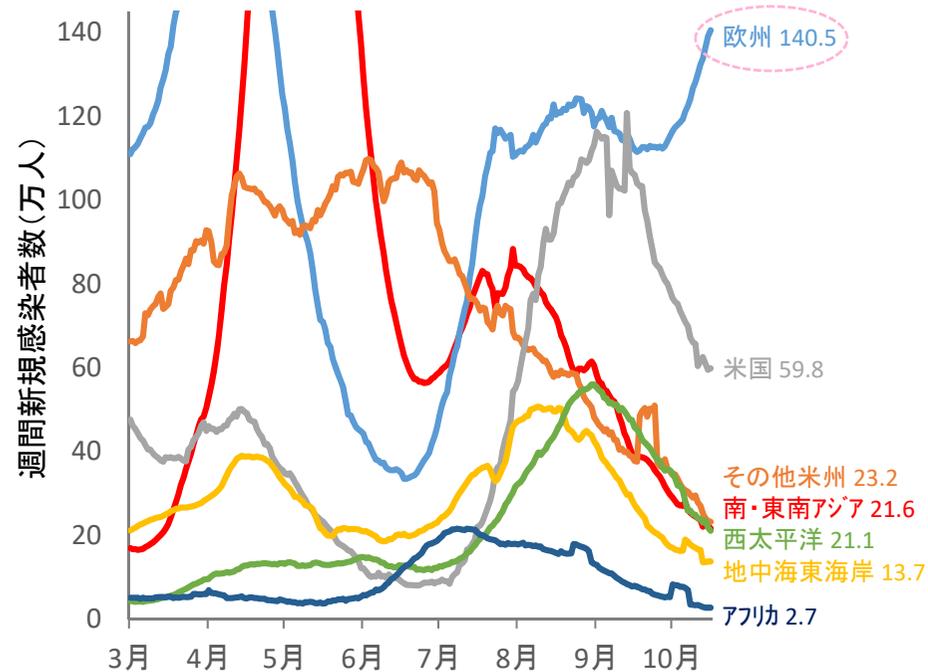
《目次》

| | |
|-------------------------|------|
| ＜新型コロナウイルス関連＞ | |
| 感染動向 | P 3 |
| ワクチン接種動向 | P 10 |
| ＜各国経済・金融政策・政治＞ | |
| 米国 | P 12 |
| 欧州 | P 14 |
| 中国・アジア・新興国 | P 15 |
| 日本 | P 19 |
| ＜金融市場＞ | P 23 |
| ＜巻末資料(主要経済指標一覧・スケジュール)＞ | P 25 |

世界の感染動向: 新規感染者数は減少傾向

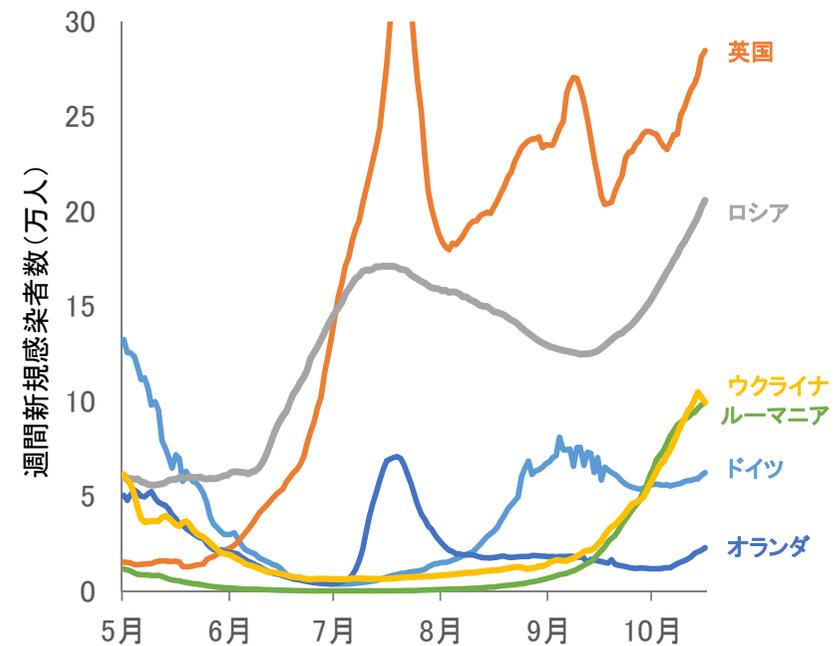
- 世界の累積感染者は10/18朝時点集計で2億4,064万人
- 世界の週間新規感染者数は283万人(前週:292万人)と引き続き減少も減少ペースは鈍化
 - 欧州の感染拡大が主因。英国やロシア、ルーマニア、ウクライナで感染拡大に歯止めがかからないほか、ドイツやオランダでも再拡大の兆候
 - 一方、感染が急拡大していたシンガポールはピークアウトの兆し

世界の週間新規感染者数



(注) 10/18時点集計値(直近データは10/16)。地域区分はWHO基準
 (出所) Johns Hopkins University、WHOより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

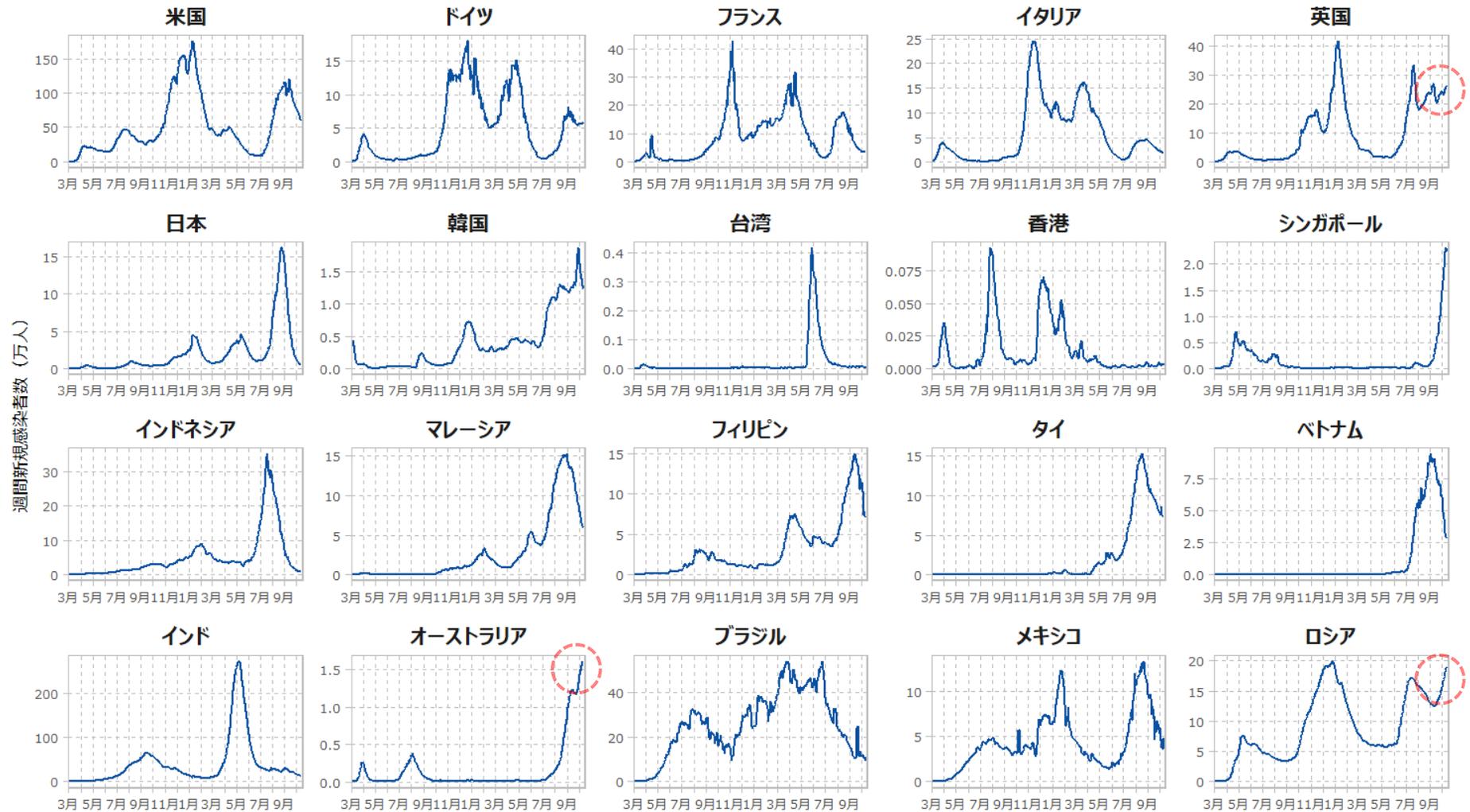
足元の感染増加幅が大きい国の週間新規感染者数



(注) 10/18時点集計値(直近データは10/16)
 (出所) Johns Hopkins Universityより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

世界の感染動向: 豪州やロシアで感染拡大。英国は高止まり

主要国の週間新規感染者数

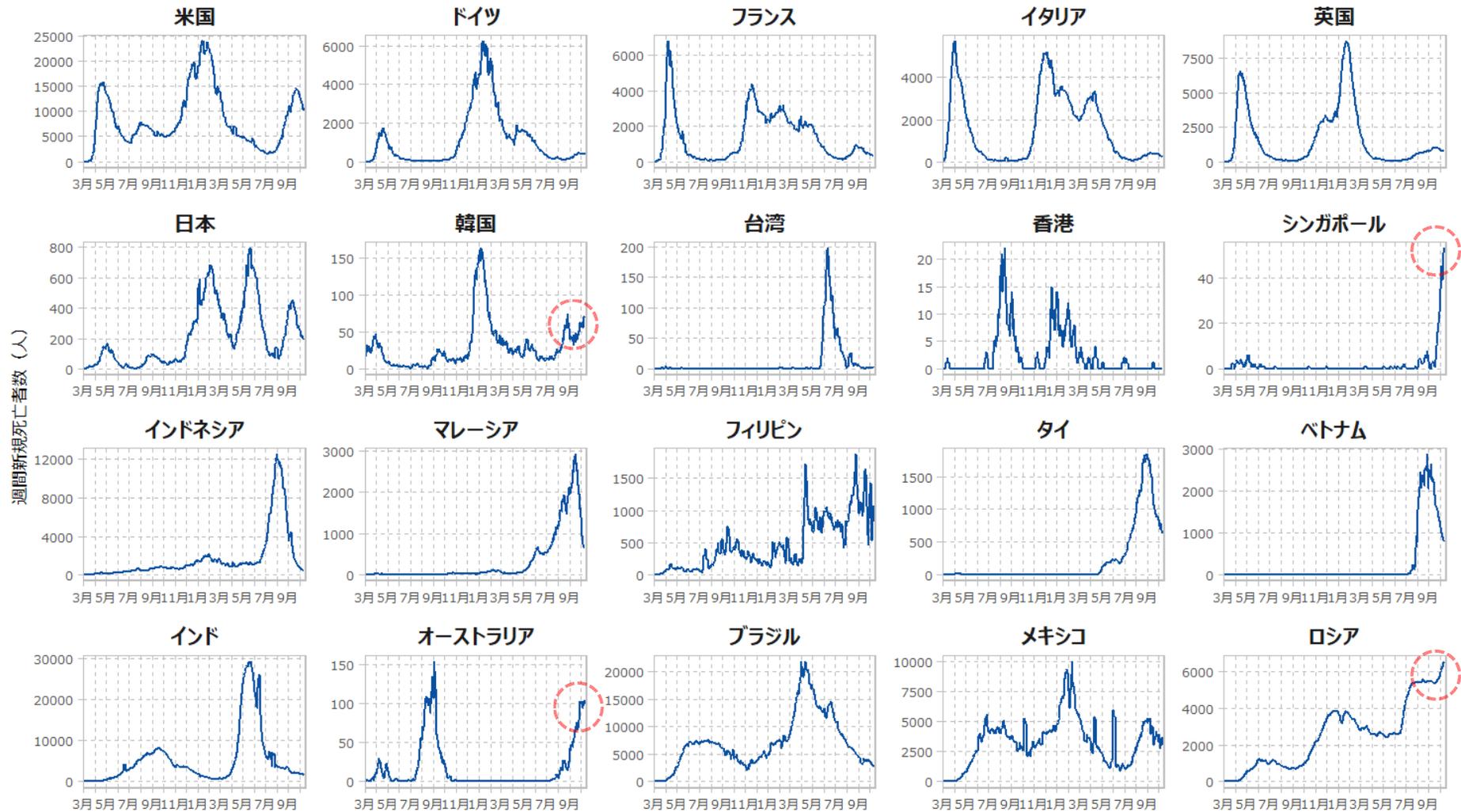


(注) 10/14時点集計値(直近データは10/12)

(出所) Johns Hopkins Universityより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

世界の感染動向:ロシアの死亡者数が一段と増加

主要国の週間新規死亡者数



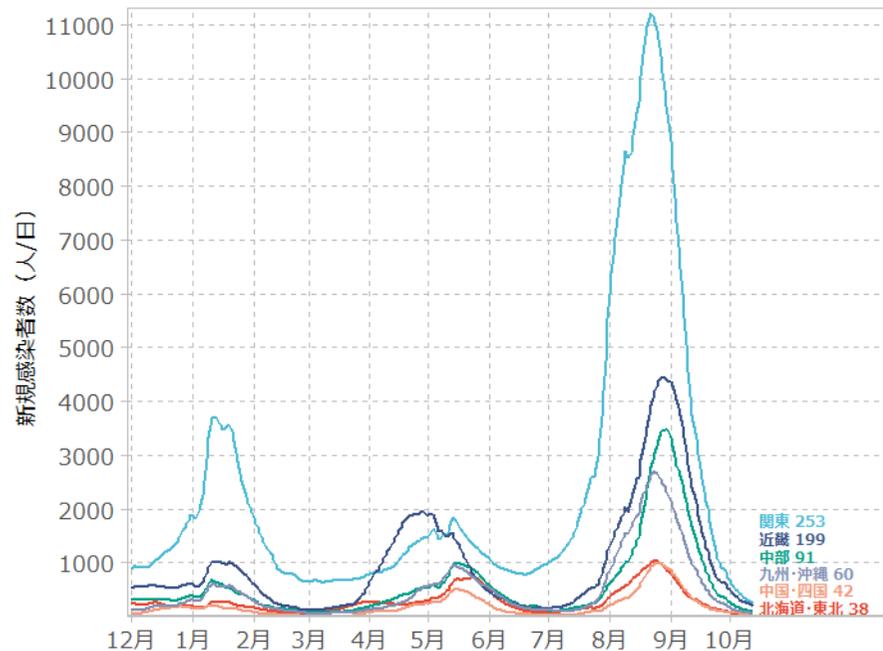
(注) 10/14時点集計値(直近データは10/12)

(出所) Johns Hopkins Universityより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

日本:全国的に感染者数の減少傾向が続く

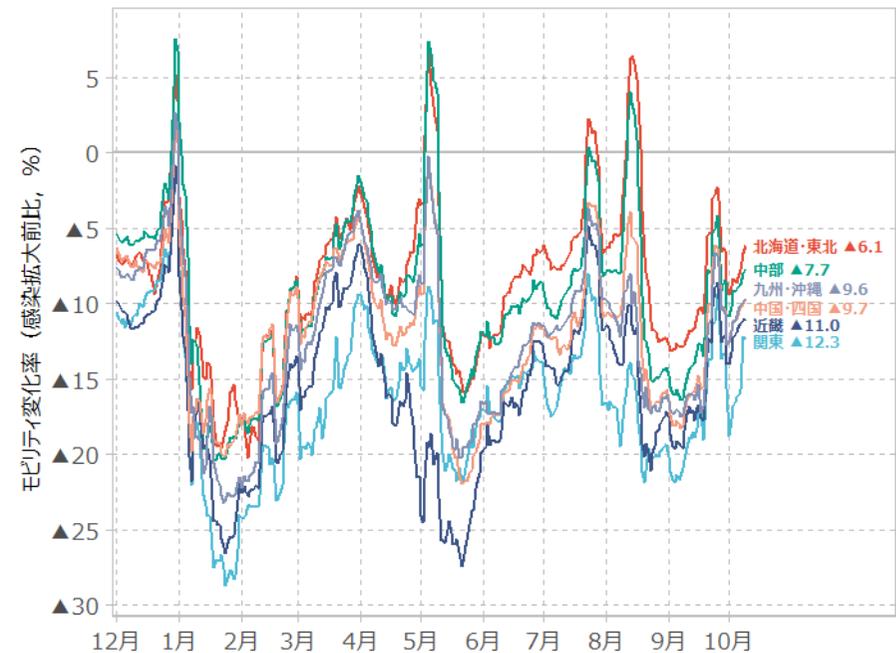
- 日本の感染者数は一段と減少。関東の新規感染者数は第5波拡大前の約3分の1に
 - 東京の年齢階級別感染者数をみると、引き続き子供を含む全世代で感染者数が減少
- 緊急事態宣言の解除を受け、小売・娯楽モビリティは10月上旬に再び上昇
 - 東京のモビリティはコロナ禍前比▲20%台前半まで回復。現役世代の感染拡大の目安は同▲10%台半ばであり（疫学モデルによる試算値）、足元では感染再拡大のリスクは小さい

地域別の新規感染者数(7日平均)



(注) 10/14時点集計値(直近データは10/13)
(出所) <https://covid-2019.live>より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

地域別の小売・娯楽モビリティ

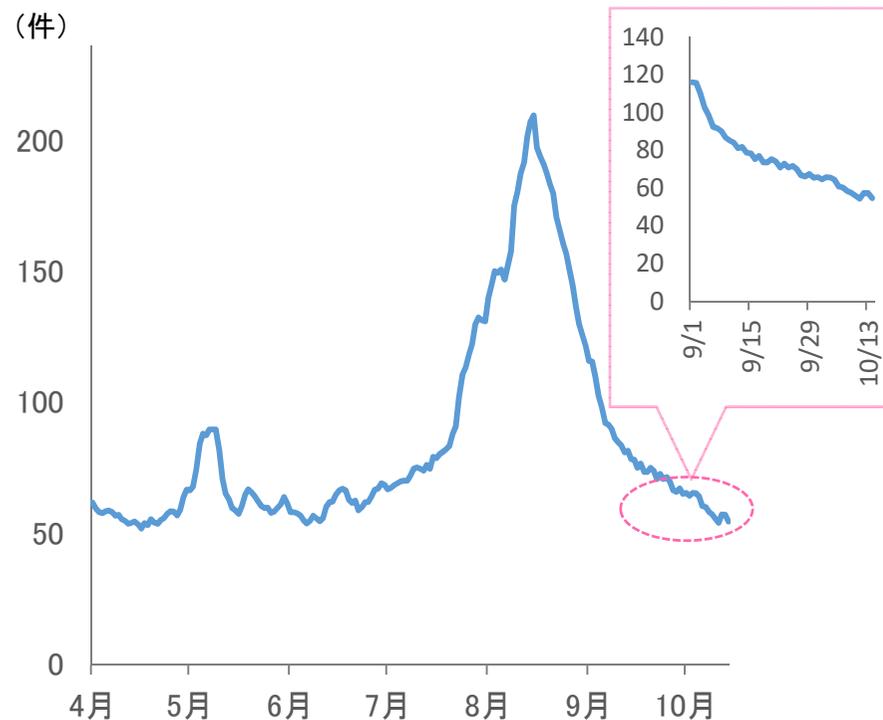


(注) 10/11更新版(直近データは10/9)
(出所) Google LLCより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

日本：先行指標とされる発熱等相談件数に反転の兆しうかがえず

- 新規感染者数の先行指標とされる東京発熱等相談件数はペースこそ鈍化しつつも減少基調を維持
 - 緊急事態宣言解除から2週間が経過するも発熱等の発症が疑われるケースが増加する兆しはうかがえず
- ただしワクチン接種完了者は未接種者に比べて無症状となる傾向。新規感染の把握漏れにつながる可能性
 - 陽性判明時の無症状の割合はワクチン未接種者の11%に対して、接種完了者は18%
 - 60歳以上新規感染者に占めるワクチン接種完了者の割合は上昇傾向。感染防止効果の低下も今後の留意点

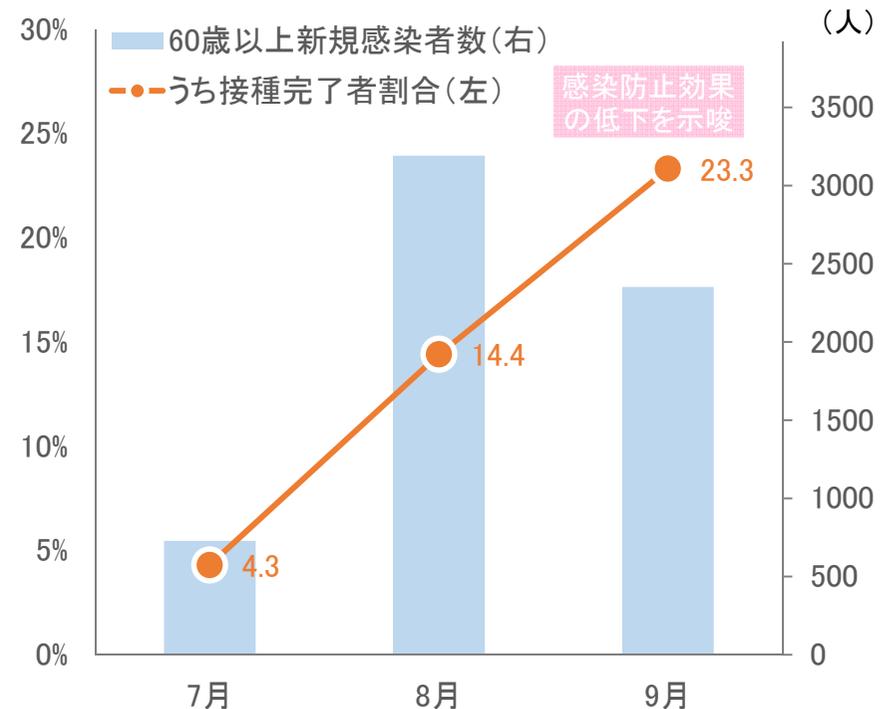
東京都発熱等相談件数(7日平均)



(注) 10/17時点集計値(直近データは10/15)

(出所) 東京都新型コロナウイルス感染症サイトより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

60歳以上新規感染者数とワクチン接種完了者の割合(大阪)

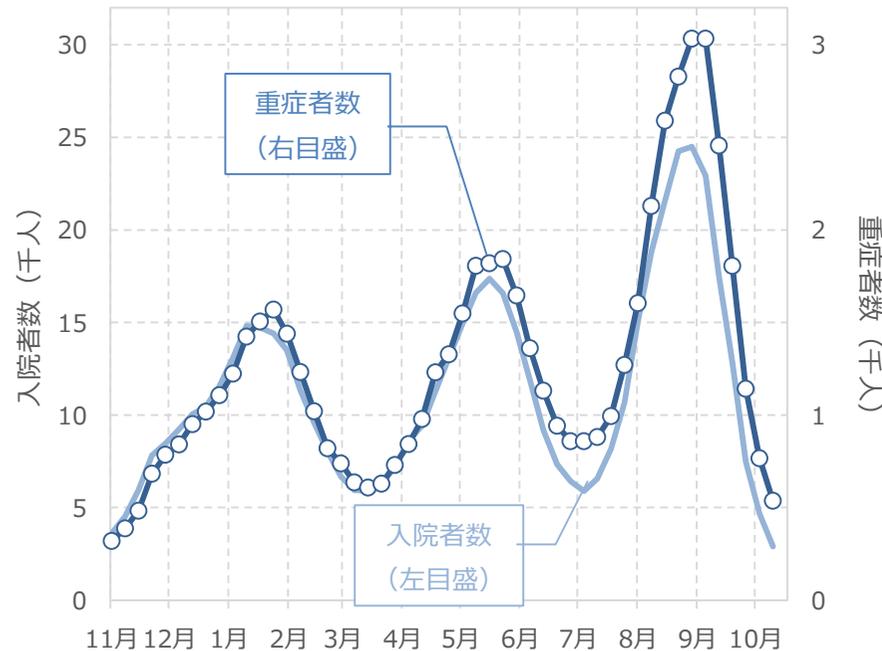


(出所) 9/28大阪府新型コロナウイルス対策本部会議資料より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

日本：入院・重症者数は減少継続。医療体制のひっ迫状況は解消

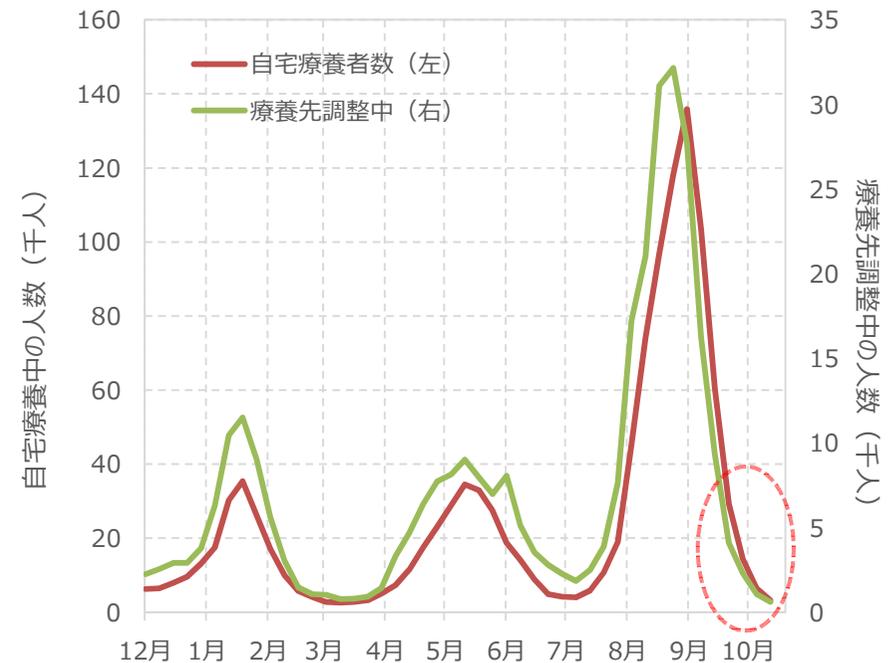
- 全国の入院者数は10/13時点で2,908人(前週比▲1,765人)と昨年7月以来の低水準に
 - 重症者数も537人(前週比▲230人)と減少継続。600人を下回るのは昨年11月18日以来のこと
- 療養先調整中の人数も600人まで減少。昨年11月以来の水準で保健所の負荷も大幅軽減
 - 自宅療養者数は3,250人と大幅減も未だ第4波後のボトムを上回る

全国の入院者数と重症者数



(注)重症者数は人工呼吸器・ECMO使用に加えICU患者も含む国基準
(出所)厚生労働省より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

全国の自宅療養者と療養先調整中の人数



(注)「療養先調整中」は2021年5月以前は「確認中の人数」
(出所)厚生労働省より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

日本：主要ステージ判断指標の変化(黄色：ステージⅢ、赤色：ステージⅣ)

■ 全ての都道府県で入院病床使用率、感染状況の指標がステージⅡ以下に

| 10月15日 公表値 | | 医療体制 | | 感染状況 |
|---------------|-----|-----------------------------------|-----------------------------------|--|
| | | 入院病床使用率 (10/12時点) (%) (前週差) | 重症病床使用率 (10/12時点) (%) (前週差) | 人口10万人当たり新規感染者数 (10/8~10/14) (人) (前週差) |
| ステージⅢの基準 | | 20% | 20% | 15人 |
| ステージⅣの基準 | | 50% | 50% | 25人 |
| 北海道・東北 | 北海道 | 2.4 (▲2.8) | 0.0 (▲2.2) | 3.0 (+0.7) |
| | 青森 | 4.7 (▲3.9) | 6.5 (▲6.5) | 8.1 (+3.8) |
| | 岩手 | 0.9 (▲1.7) | 0.0 (+0.0) | 0.1 (▲0.4) |
| | 宮城 | 3.8 (▲3.6) | 1.9 (▲3.7) | 0.6 (▲0.7) |
| 関東 | 秋田 | 1.8 (▲0.7) | 0.0 (▲4.5) | 0.2 (▲2.8) |
| | 山形 | 2.1 (▲1.3) | 0.0 (+0.0) | 1.3 (+0.2) |
| | 福島 | 3.1 (▲1.7) | 4.1 (▲4.1) | 0.4 (▲0.9) |
| | 茨城 | 6.7 (▲4.3) | 11.4 (▲1.4) | 2.6 (▲1.8) |
| 中部 | 栃木 | 7.8 (▲6.2) | 6.5 (▲2.2) | 3.1 (▲2.3) |
| | 群馬 | 4.3 (▲6.9) | 3.9 (▲7.9) | 2.8 (▲0.5) |
| | 埼玉 | 11.4 (▲8.2) | 15.3 (▲7.1) | 3.0 (▲3.5) |
| | 千葉 | 11.3 (▲5.3) | 23.0 (▲15.9) | 3.3 (▲2.9) |
| 近畿 | 東京 | 7.0 (▲4.0) | 14.8 (▲6.9) | 3.9 (▲3.9) |
| | 神奈川 | 11.8 (▲5.1) | 14.3 (▲10.0) | 4.3 (▲2.2) |
| | 新潟 | 6.1 (▲6.7) | 1.8 (▲0.9) | 1.4 (▲2.7) |
| | 富山 | 4.4 (+0.8) | 2.8 (+0.4) | 2.6 (+0.4) |
| 中国・四国 | 石川 | 6.3 (▲11.2) | 0.0 (▲2.7) | 1.5 (▲4.2) |
| | 福井 | 5.0 (▲3.5) | 4.2 (+0.0) | 3.1 (▲0.5) |
| | 山梨 | 2.2 (▲2.5) | 0.0 (+0.0) | 1.1 (▲1.5) |
| | 長野 | 5.7 (+0.4) | 0.0 (▲2.3) | 1.9 (▲1.0) |
| 九州・沖縄 | 岐阜 | 7.8 (▲2.6) | 5.1 (+0.0) | 5.9 (▲1.6) |
| | 静岡 | 2.0 (▲2.4) | 1.6 (▲1.6) | 0.9 (▲1.1) |
| | 愛知 | 7.1 (▲6.7) | 6.6 (▲6.0) | 3.2 (▲3.0) |
| | 三重 | 10.6 (+0.6) | 5.9 (+2.0) | 2.7 (▲0.7) |
| 九州・沖縄 | 滋賀 | 5.0 (▲14.6) | 1.9 (+0.0) | 1.6 (▲3.7) |
| | 京都 | 8.4 (▲3.4) | 6.8 (▲1.9) | 4.6 (▲2.3) |
| | 大阪 | 13.5 (▲4.1) | 12.7 (▲1.9) | 8.9 (▲4.8) |
| | 兵庫 | 10.3 (▲7.7) | 9.2 (▲9.2) | 4.8 (▲4.2) |
| 九州・沖縄 | 奈良 | 10.4 (▲3.2) | 8.8 (▲5.9) | 5.6 (+0.2) |
| | 和歌山 | 2.8 (▲5.2) | 3.8 (+0.0) | 1.0 (▲3.2) |
| | 鳥取 | 3.0 (▲1.2) | 0.0 (+0.0) | 2.0 (+0.2) |
| | 島根 | 2.8 (▲7.7) | 0.0 (+0.0) | 0.7 (▲2.1) |
| 九州・沖縄 | 岡山 | 4.8 (▲0.2) | 2.9 (+1.5) | 2.3 (▲1.3) |
| | 広島 | 5.0 (▲1.3) | 5.8 (+0.0) | 3.7 (▲1.9) |
| | 山口 | 7.5 (▲3.4) | 0.0 (+0.0) | 3.8 (+1.3) |
| | 徳島 | 5.6 (▲7.3) | 0.0 (+0.0) | 0.7 (▲2.2) |
| 九州・沖縄 | 香川 | 4.6 (▲2.5) | 3.3 (+0.0) | 0.3 (▲0.8) |
| | 愛媛 | 11.1 (▲0.8) | 5.3 (▲5.3) | 5.1 (▲0.7) |
| | 高知 | 3.8 (▲1.7) | 0.0 (▲1.7) | 1.4 (▲0.7) |
| | 福岡 | 6.7 (▲5.3) | 7.9 (▲2.0) | 2.8 (▲1.3) |
| 九州・沖縄 | 佐賀 | 2.4 (▲5.6) | 2.1 (+0.0) | 2.5 (▲2.2) |
| | 長崎 | 5.7 (+0.0) | 0.0 (+0.0) | 2.6 (▲0.4) |
| | 熊本 | 2.6 (▲5.1) | 7.1 (▲1.8) | 0.9 (▲1.8) |
| | 大分 | 5.9 (▲2.3) | 2.3 (+0.0) | 2.7 (▲2.4) |
| 九州・沖縄 | 宮崎 | 1.2 (▲2.7) | 0.0 (+0.0) | 0.4 (▲0.8) |
| | 鹿児島 | 2.7 (▲3.4) | 0.0 (+0.0) | 1.2 (+0.1) |
| | 沖縄 | 7.9 (▲10.4) | 6.3 (▲20.6) | 10.9 (▲3.2) |

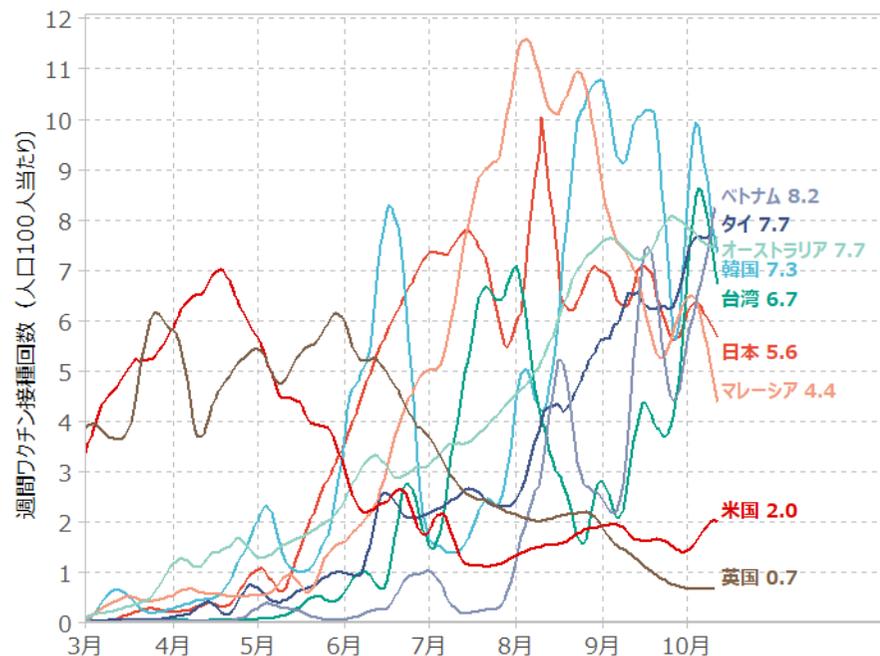
| 10月8日 公表値 | | 医療体制 | | 感染状況 |
|--------------|-----|----------------------------------|----------------------------------|---|
| | | 入院病床使用率 (10/5時点) (%) (前週差) | 重症病床使用率 (10/5時点) (%) (前週差) | 人口10万人当たり新規感染者数 (10/1~10/7) (人) (前週差) |
| ステージⅢの基準 | | 20% | 20% | 15人 |
| ステージⅣの基準 | | 50% | 50% | 25人 |
| 北海道・東北 | 北海道 | 5.3 (▲4.4) | 2.2 (▲4.8) | 2.3 (▲3.3) |
| | 青森 | 8.6 (▲13.9) | 12.9 (▲6.5) | 4.3 (▲8.2) |
| | 岩手 | 2.6 (▲0.3) | 0.0 (+0.0) | 0.5 (+0.1) |
| | 宮城 | 7.4 (▲5.0) | 5.6 (+0.0) | 1.3 (▲4.4) |
| 関東 | 秋田 | 2.6 (▲0.7) | 4.5 (+0.0) | 3.0 (+1.7) |
| | 山形 | 3.4 (▲7.6) | 0.0 (+0.0) | 1.1 (▲1.3) |
| | 福島 | 4.9 (▲1.9) | 8.2 (+0.0) | 1.3 (▲0.7) |
| | 茨城 | 11.0 (▲4.8) | 12.9 (▲5.7) | 4.3 (▲4.6) |
| 中部 | 栃木 | 13.9 (▲4.4) | 8.7 (▲8.7) | 5.4 (▲4.1) |
| | 群馬 | 11.2 (▲7.6) | 11.8 (▲3.9) | 3.2 (▲2.0) |
| | 埼玉 | 19.6 (▲8.6) | 22.4 (▲2.6) | 6.5 (▲5.8) |
| | 千葉 | 16.7 (▲8.3) | 38.9 (+7.1) | 6.2 (▲4.9) |
| 近畿 | 東京 | 11.0 (▲6.5) | 21.7 (▲10.2) | 7.8 (▲5.2) |
| | 神奈川 | 16.9 (▲13.5) | 24.3 (▲14.8) | 6.5 (▲5.9) |
| | 新潟 | 12.8 (▲6.5) | 2.7 (+0.9) | 4.1 (▲2.2) |
| | 富山 | 3.6 (▲2.6) | 2.8 (▲5.6) | 2.2 (▲0.7) |
| 中国・四国 | 石川 | 17.5 (+5.4) | 2.7 (▲2.4) | 5.7 (+0.1) |
| | 福井 | 8.5 (▲9.7) | 4.2 (+0.0) | 3.6 (▲2.2) |
| | 山梨 | 4.6 (▲13.9) | 0.0 (+0.0) | 2.6 (▲7.4) |
| | 長野 | 5.3 (▲5.3) | 2.3 (+0.0) | 2.9 (▲0.4) |
| 九州・沖縄 | 岐阜 | 10.4 (▲4.4) | 5.1 (▲5.1) | 7.5 (▲4.0) |
| | 静岡 | 4.5 (▲5.1) | 3.2 (▲8.1) | 2.0 (▲3.1) |
| | 愛知 | 13.9 (▲12.4) | 12.6 (▲11.5) | 6.3 (▲7.7) |
| | 三重 | 10.0 (▲8.1) | 3.9 (▲2.6) | 3.4 (▲2.1) |
| 九州・沖縄 | 滋賀 | 19.6 (▲4.1) | 1.9 (+0.0) | 5.4 (▲3.7) |
| | 京都 | 11.8 (▲10.0) | 8.7 (▲5.0) | 7.0 (▲5.3) |
| | 大阪 | 17.6 (▲3.9) | 14.7 (▲6.7) | 13.7 (▲10.5) |
| | 兵庫 | 18.0 (▲10.8) | 18.3 (▲3.5) | 9.0 (▲6.9) |
| 九州・沖縄 | 奈良 | 13.6 (▲14.3) | 14.7 (▲5.9) | 5.5 (▲4.7) |
| | 和歌山 | 7.9 (▲2.1) | 3.8 (+0.0) | 4.2 (▲2.2) |
| | 鳥取 | 4.2 (▲1.5) | 0.0 (+0.0) | 1.8 (+1.3) |
| | 島根 | 10.5 (▲5.9) | 0.0 (+0.0) | 2.8 (▲2.7) |
| 九州・沖縄 | 岡山 | 5.0 (▲1.8) | 1.5 (▲2.9) | 3.6 (▲0.1) |
| | 広島 | 6.3 (▲3.0) | 5.8 (▲2.9) | 5.6 (▲2.9) |
| | 山口 | 10.9 (▲0.6) | 0.0 (+0.0) | 2.4 (▲1.3) |
| | 徳島 | 12.8 (▲5.6) | 0.0 (▲8.0) | 2.9 (▲2.2) |
| 九州・沖縄 | 香川 | 7.1 (▲4.2) | 3.3 (▲3.3) | 1.2 (▲0.9) |
| | 愛媛 | 11.9 (▲1.4) | 10.5 (▲1.0) | 5.8 (+0.0) |
| | 高知 | 5.5 (+0.4) | 1.7 (+0.0) | 2.1 (▲2.6) |
| | 福岡 | 12.0 (▲8.6) | 9.9 (▲1.5) | 4.1 (▲4.9) |
| 九州・沖縄 | 佐賀 | 8.0 (+1.7) | 2.1 (+0.0) | 4.7 (▲2.0) |
| | 長崎 | 5.7 (▲3.0) | 0.0 (▲2.6) | 2.9 (▲0.2) |
| | 熊本 | 7.8 (▲2.4) | 8.9 (+0.5) | 2.6 (▲4.0) |
| | 大分 | 8.2 (▲8.3) | 2.3 (▲4.7) | 5.1 (▲4.2) |
| 九州・沖縄 | 宮崎 | 3.9 (▲2.4) | 0.0 (▲12.1) | 1.2 (▲1.9) |
| | 鹿児島 | 6.1 (▲2.7) | 0.0 (▲5.9) | 1.1 (▲0.2) |
| | 沖縄 | 18.3 (▲8.2) | 27.0 (▲4.4) | 14.2 (▲18.7) |

(注)厚生労働省による集計値であり、各都道府県公表の入院・重症病床使用率と値が異なる場合がある。(出所)厚生労働省より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

世界のワクチン接種動向：アジア・オセアニアを中心に接種ペースが堅調に推移

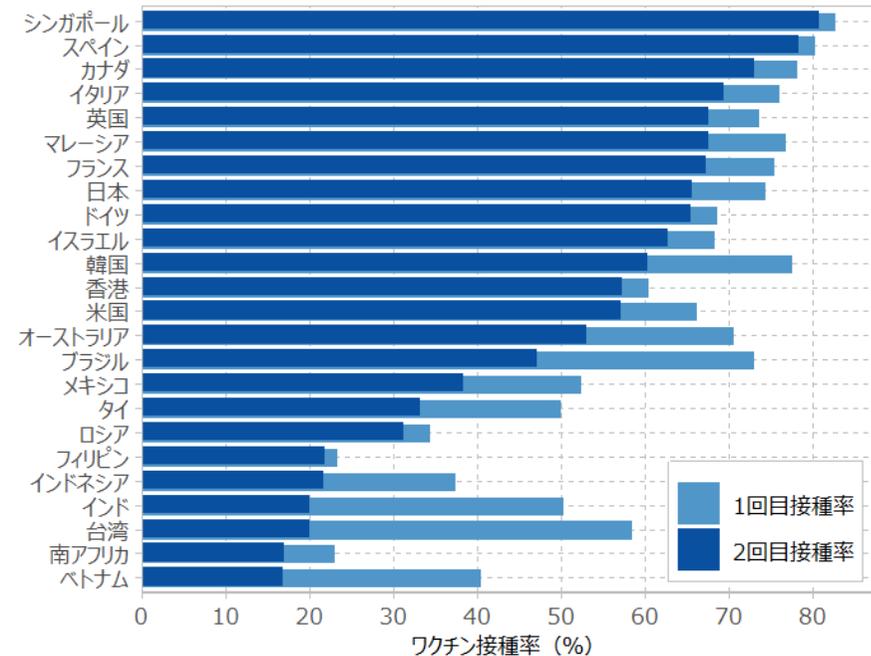
- 日本などの東アジアや、東南アジア、オセアニアで堅調な接種ペースが継続
 - 人口100人当たり週間接種回数では、ベトナム(8.2回)、タイ(7.7回)、オーストラリア(7.7回)、韓国(7.3回)、台湾(6.7回)、日本(5.6回)が上位。既に欧米先進国並みに普及したマレーシア(4.4回)はやや減速
 - なお、台湾やベトナムは1回目接種を優先しているため、1回目普及率が上昇している一方、2回目普及率は依然として低位
 - ロシア、フィリピン、南アフリカの接種ペースは相対的に遅く、1・2回目ともに普及率が高まらず

国別の人口100人当たり週間ワクチン接種回数



(注)10/14時点集計値(直近データは10/12)
 (出所)Our World in Dataより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

主要国のワクチン1・2回目接種率(全人口対比)

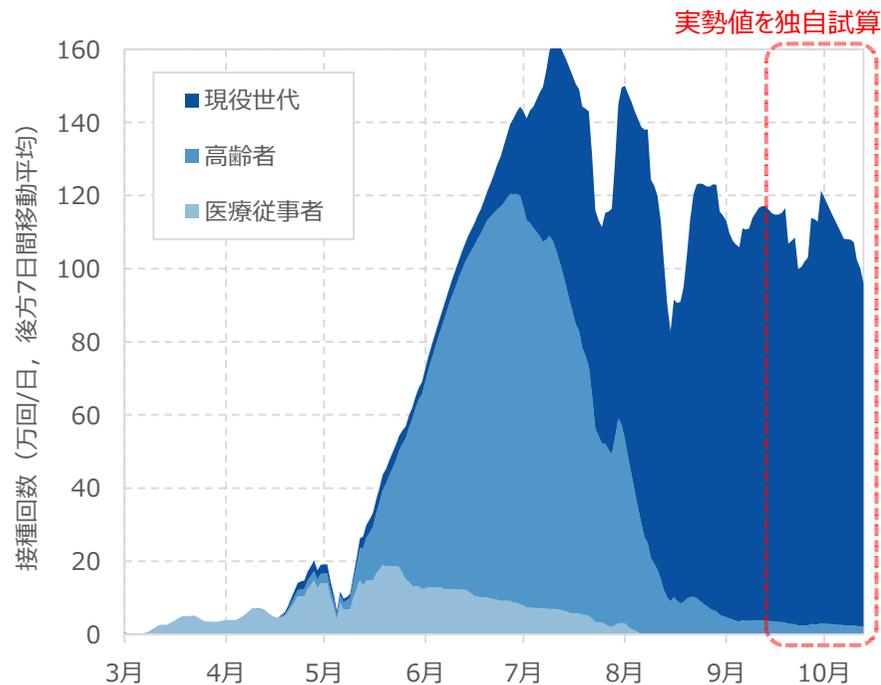


(注)10/14時点集計値(直近データは10/12)
 (出所)Our World in Dataより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

日本: ワクチン接種ペースは10月に入り徐々に減速

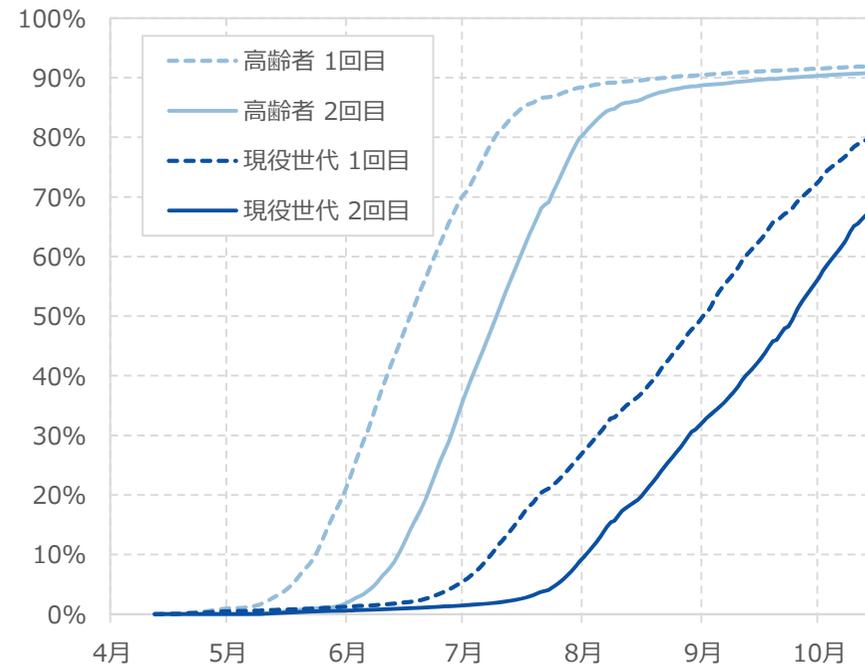
- 全国のワクチン接種ペースは、10月に入り実勢ベースで1日当たり90万回台に減速
 - 現役世代の普及進展に伴い、自治体の集団接種会場が徐々に縮小されていることが背景
- 現役世代のワクチン1回目普及率が80%近傍に到達
 - 現役世代の2回目普及率も足元で67%まで上昇。3~4週間後には現在の1回目水準(8割前後)に達する公算

日本のワクチン接種ペース(直近は実勢試算値)



(注) 高齢者と現役世代の直近3週間の値は、データ入力遅れの影響を考慮した実勢値を試算したものであり、今後変化する可能性に留意。職域接種は一部のみ含む
(出所) 首相官邸、政府CIOポータルより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

全国の高齢者・現役世代ワクチン普及率

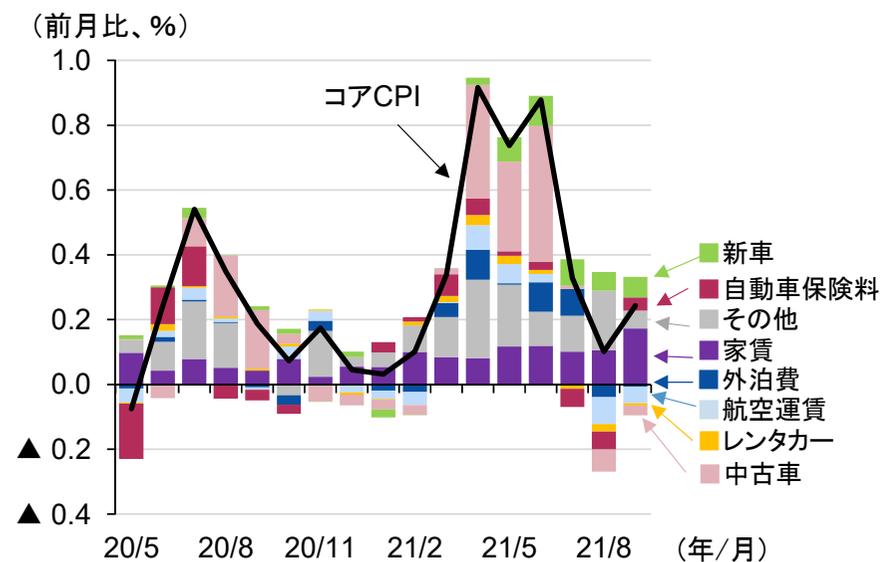


(注) 現役世代は医療従事者、小児除くベース。職域接種分は一部未計上
(出所) 政府CIOポータルより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

米国：感染拡大の一服と財需給のひっ迫が今後のインフレ率にとっての上振れ圧力

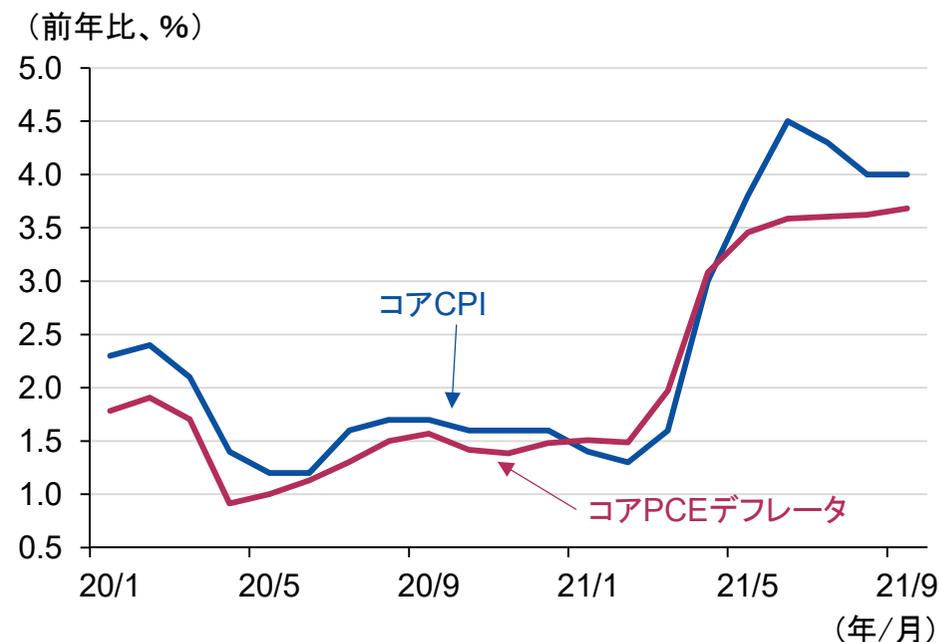
- 9月のコアCPIは前月比+0.2%（8月同+0.1%）と小幅ながら再加速。今後のインフレ上振れ圧力も高まる方向
 - 感染懸念の残存から航空運賃や外泊費等の下落が継続。但し、10月には感染拡大一服により上昇に転じる公算
 - 新車価格の伸びは加速。中古車価格は下落も、9月の卸売価格は再上昇（早晚、CPIベースでも再上昇へ）
 - 家賃の伸びは急加速。所得改善や持家市場のひっ迫を背景とする賃貸市況の上振れリスクには注意
- 今回の結果を踏まえると、9月のコアPCEデフレーターは前年比+3.7%（8月同+3.6%）に加速する見込み

コアCPI(前月比)



(出所) 米国労働省より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

コアCPIとコアPCEデフレーター



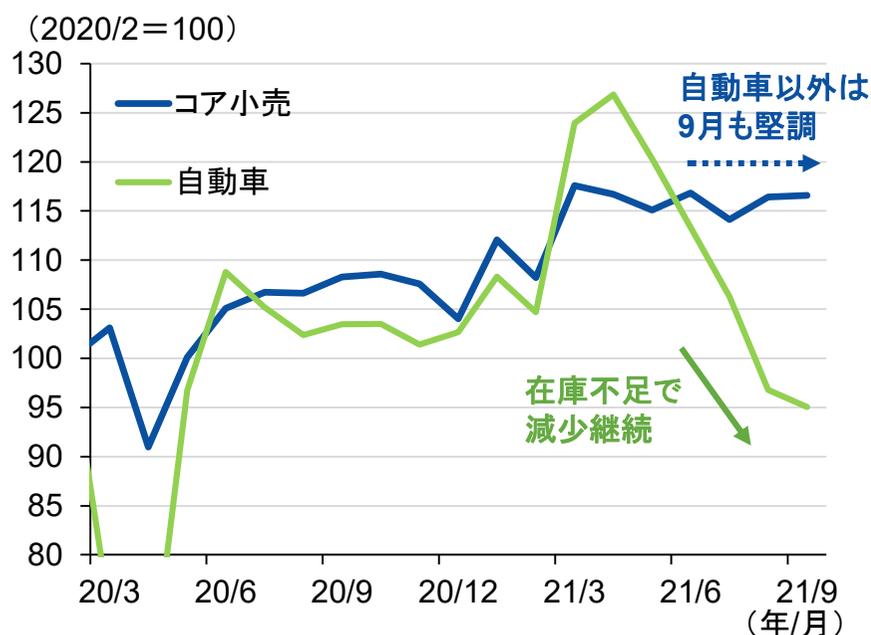
(注) 2021年9月コアPCEデフレーターは、同月CPI等を踏まえた予測値

(出所) 米国労働省、米国商務省より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

米国：9月は自動車除く財が好調。サービスは、感染懸念の緩和で10月以降復調へ

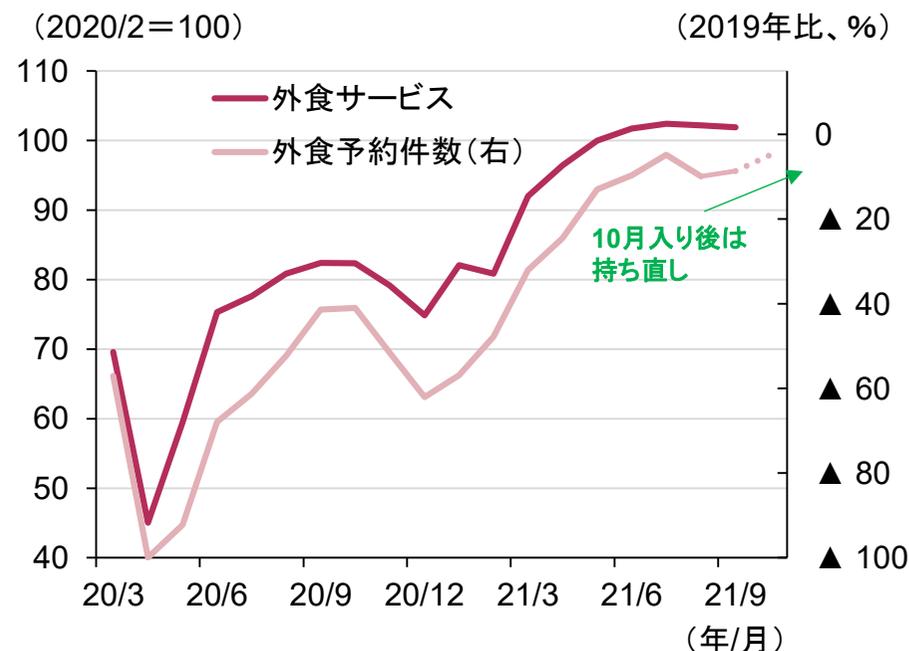
- 9月の実質コア小売（前月比+0.1%、MHRT試算値）は堅調さを維持し、在庫不足の深刻な自動車（同▲1.8%）を除く財の好調さを確認。実質外食売上高（同▲0.3%）は9月も感染懸念の残存が重石となり減少が継続
- 9月下旬以降、感染第4波はピークアウト。今後も感染減が続くとみられる中、接客サービス消費は改善を見込むが、消費マインドは改善しておらず感染懸念は引き続き残存している模様
 - 10月初旬（～10/11）にかけて、外食予約件数は持ち直し。一方で、10月のミシガン大消費者マインド指数は71.4と前月（72.8）から悪化

コア小売売上高と自動車売上高（実質ベース）



(注) みずほRTが試算した実質値。コア小売は、自動車、建材、ガソリン、外食を除いたもの
(出所) 米国商務省より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

実質外食サービス売上高と外食予約件数



(注) 外食サービスは、みずほRTが試算した実質値。10月の外食予約は10/11までの平均値
(出所) 米国商務省、Open Tableより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

欧州：8月鉱工業生産は供給制約から減産。先行きは横ばい圏で推移する見込み

- 8月のユーロ圏鉱工業生産は、前月比▲1.6%と3カ月ぶりに減少。供給制約による自動車の減産(前月比▲10.5%)が背景に
 - 自動車減産の悪影響は、サプライヤー(金属や金属加工、ゴム・プラスチック製造業など)に波及。サプライヤーの8月生産水準は、産業連関表から試算される自動車減産の影響を反映した理論値とおおむね整合的な水準
- 2022年半ばまでは、供給制約の長期化から自動車生産が本格回復には至らず、自動車部材のサプライヤーを含め、鉱工業生産は横ばい圏での推移となる見込み

ユーロ圏：鉱工業生産

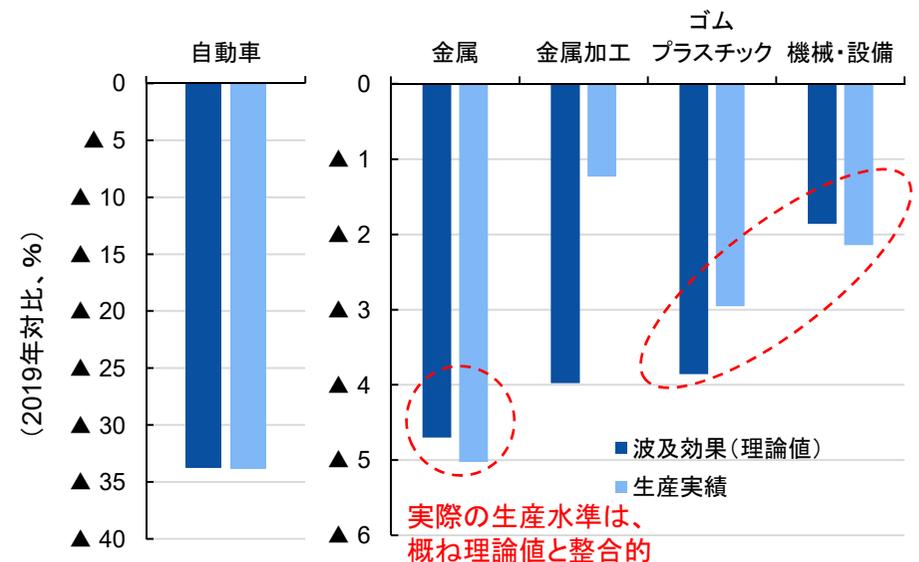
(2019年=100)

| | 20 | | 21 | | | | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | |
| 鉱工業生産 | 98 | 99 | 98 | 98 | 99 | 98 | 98 | 100 | 98 | |
| 自動車 | 93 | 88 | 81 | 81 | 79 | 73 | 72 | 74 | 66 | |
| 金属 | 98 | 97 | 97 | 97 | 98 | 100 | 100 | 98 | 95 | |
| 金属加工 | 97 | 98 | 97 | 98 | 100 | 99 | 100 | 99 | 99 | |
| ゴム・プラスチック | 102 | 101 | 99 | 101 | 101 | 100 | 99 | 100 | 97 | |
| 機械修理・設置 | 92 | 96 | 95 | 95 | 99 | 98 | 97 | 101 | 98 | |
| PC、電子・光学 | 122 | 121 | 127 | 120 | 124 | 122 | 117 | 120 | 114 | |
| 電気機器 | 99 | 103 | 103 | 103 | 106 | 105 | 107 | 105 | 104 | |

(年)
(月)

自動車減産の影響大
堅調さ維持

ユーロ圏：自動車減産による波及効果と生産実績



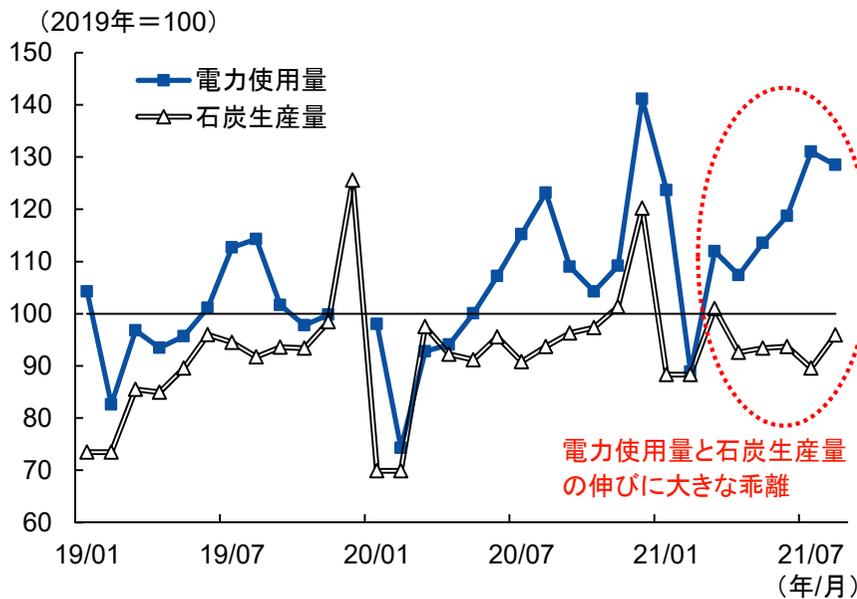
- (注) 1. 生産実績は、鉱工業生産(2021年8月)の2019年平均対比の変化率
 2. 波及効果(理論値)は、2019年産業連関表に基づく、自動車需要が27%程度減少した際の後方連関効果(含む直接効果)
- (出所) Eurostatより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

(出所) Eurostatより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

中国：政府が石炭・電力の安定供給を指示も、生産への影響は当面続くおそれ

- 年初来、電力需要が高止まりする一方、石炭生産は安全管理や環境規制により前年並みで推移し、需給がひっ迫
- 電力不足の深刻化を受け、中国政府は地方政府・国有企業に石炭・電力の安定供給を確保するよう指示
 - 石炭生産の5割強を占める内モンゴル自治区と山西省が増産体制に入ったものの、山西省では10月初旬、大雨により省内60カ所の炭鉱が一時操業停止に陥る等、供給不足の解消にはなお一定の時間がかかる見込み
 - 石炭価格高騰による発電の逆ザヤを解消するため、中国政府は工業・商業用電力価格の変動許容幅を拡大
 - 一方、エネルギー消費抑制目標の旗は降ろしておらず、優先度の低い工業用電力は引き続き制限を受けるリスク

電力使用量・石炭生産量の推移



(注) 電力使用量の12月は、年間の数字から1~11月の累計値を差し引いて算出
 石炭生産量の1月、2月は、2月までの累計値を2等分して算出
 (出所) 国家統計局、中国電力企業联合会、CEICより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

電力不足をめぐる直近の主な動き

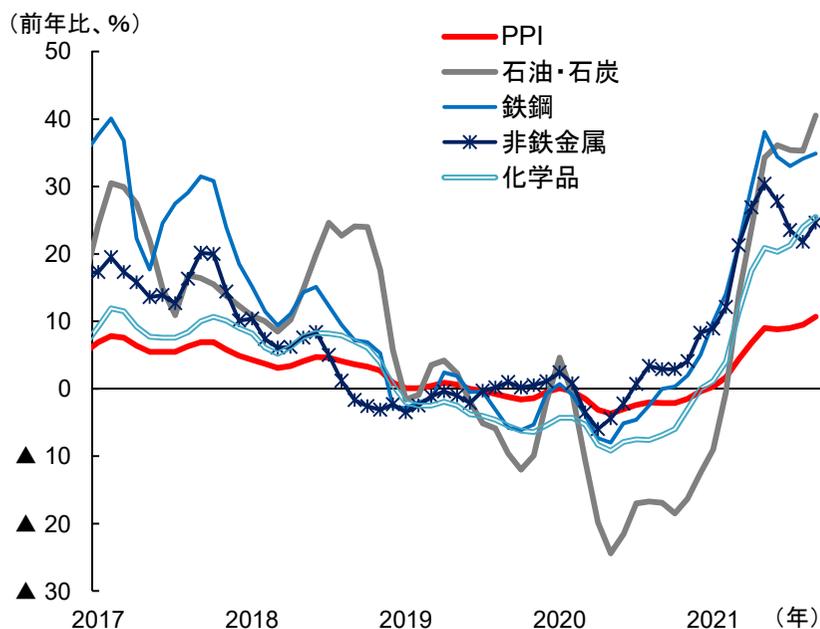
| 日付 | 政策・出来事 |
|-------|--|
| 9/23 | 吉林省・遼寧省の一部地域で停電発生。以後、全国各地で電力ひっ迫が顕在化、工場の稼働停止相次ぐ |
| 9/27 | 国有資産監督管理委が送発電・石炭・石油等の国有中央企業の責任者を呼びエネルギー供給の確保を指示 |
| 10/8 | 李克強総理が国務院常務会議を開催。石炭・電力の安定供給と画一的な生産停止の是正を指示 |
| | 内モンゴル自治区エネルギー局が域内72の炭鉱に増産を指示したと発表。生産能力を9,835万トン積み増し |
| 10/9 | 李克強総理が国家エネルギー委員会を開催。エネルギー供給を確保した上で排出削減に取り組むよう指示 |
| 10/15 | 国家発改委が火力電力価格の市場化改革を実施。工業・商業用電力価格で基準価格から20%以内の上下変動を容認(従来は基準価格の85~110%の範囲) |

(出所) 中国政府網、各種報道より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

中国：電力不足等を背景にPPIは上昇が続く

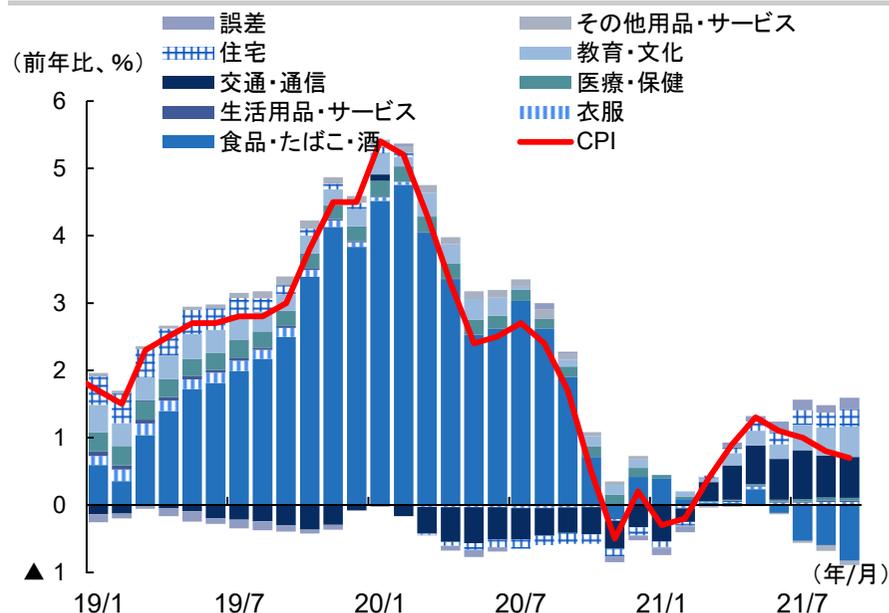
- 9月PPI(生産者物価指数)は前年比+10.7%(8月:同+9.5%)と、上昇傾向が続く
 - 前年要因に加え、石炭等の商品価格や、電力供給制限を背景とした非鉄金属をはじめとするエネルギー消費の高い業界が上昇。資源、燃料加工、化学、鉄・非鉄金属が、上昇率の約8割を占めた
 - 工業用電力価格の変動許容幅の拡大や足元の電力供給状況から、2021年初までは高水準が続くとみられる
 - 9月CPI(消費者物価指数)は前年比+0.7%(8月:同+0.8%)と、依然としてPPIからの波及はみられず。国内における価格転嫁の難しさから企業収益の圧迫、ひいては設備投資の抑制に発展するリスクには留意

PPI(業種別)



(出所) 国家统计局、CEIC dataより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

CPI(品目別寄与度)



(注) 2021年からウエイト変更。ウエイトが非公表のため、中国建設銀行の試算によるウエイトに国家统计局公表のウエイト変更幅を加え、算出

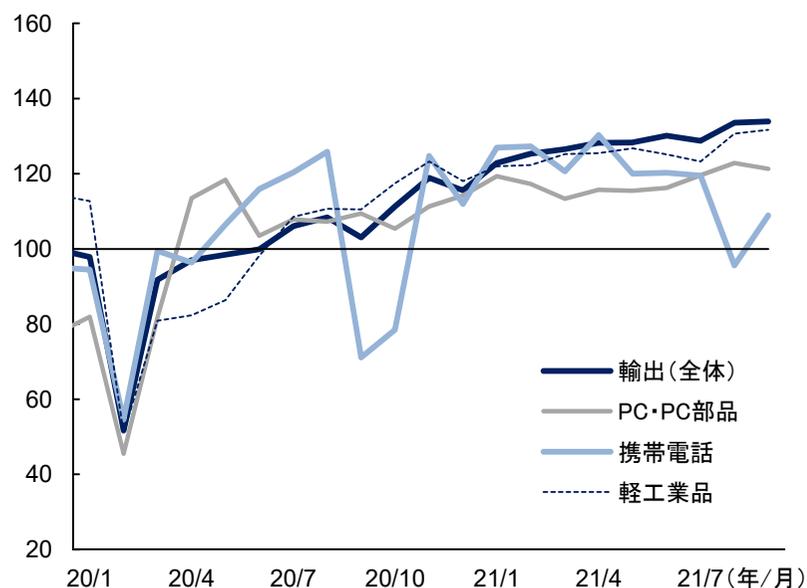
(出所) 国家统计局、中国建设银行「2016年统计局CP权重调整情况估算」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

中国：輸出は高水準を維持も、今後は電力不足が下押し要因に

- 2021年9月の輸出は前月比+0.2% (MHRTによる季節調整値、前月：同+3.8%)と小幅に増加
 - 年末商戦の早期出荷を反映したとみられる軽工業品が堅調に推移。携帯電話も洪水被害から復旧により持ち直し
 - 一部品目では輸出単価 (MHRT試算) が緩やかな上昇傾向にあり、原材料高等の価格転嫁が輸出の追い風に
 - 主要国・地域別では米国向けが前月比+2.1%と全体をけん引
- 世界的な財需要のピークアウトを背景に、今後は緩やかな鈍化基調となる見込み
 - 足元の電力不足の影響は9月時点ではみられないものの、向こう数カ月の下押し要因となる懸念あり

輸出金額(品目別、米ドルベース)

(2019年=100)

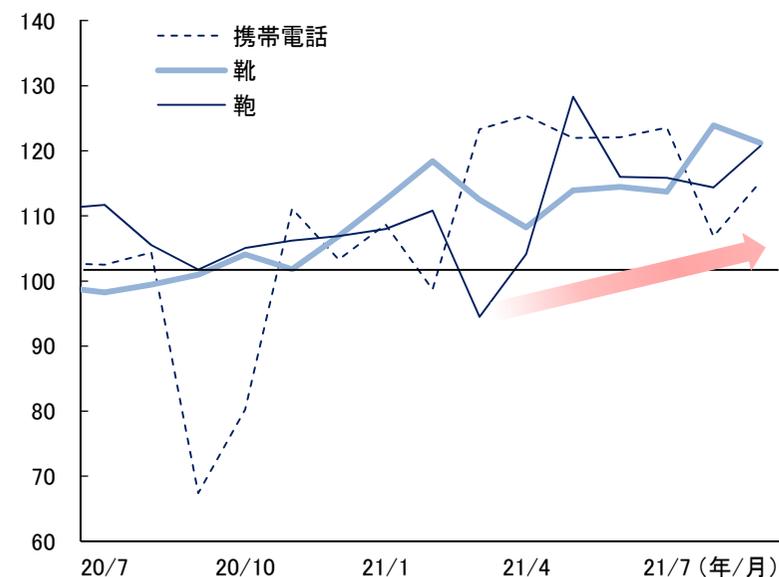


(注)みずほリサーチ&テクノロジーズによる季節調整値、軽工業品には、衣類、靴、鞆、家具、玩具が含まれる

(出所)中国海関総署、CEIC dataより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

輸出単価(品目別、米ドルベース)

(2019年=100)



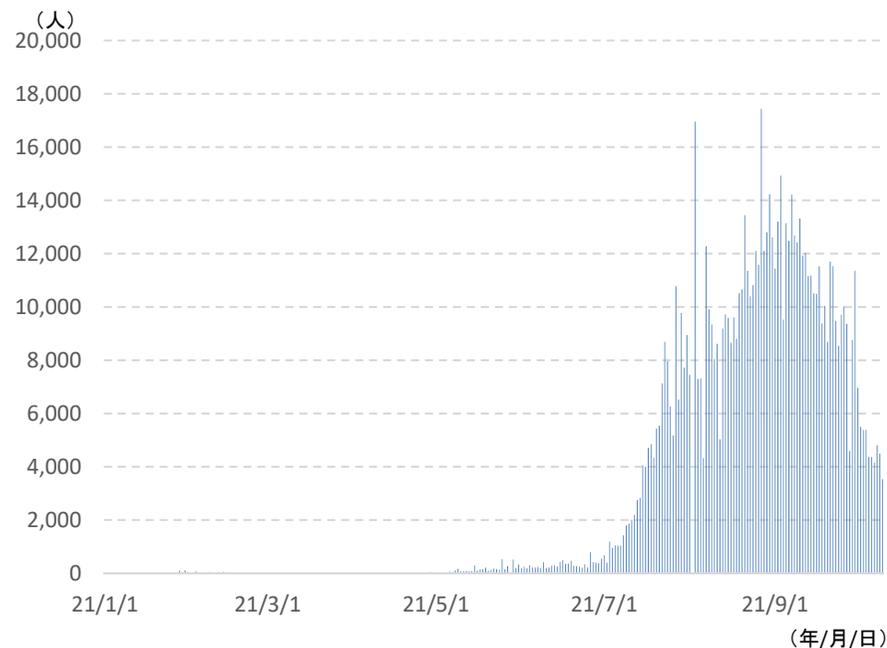
(注)みずほリサーチ&テクノロジーズによる季節調整値をもとに試算

(出所)中国海関総署、CEIC dataより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

アジア：自動車部品供給のネックだったベトナムとマレーシアでコロナ感染は収束へ

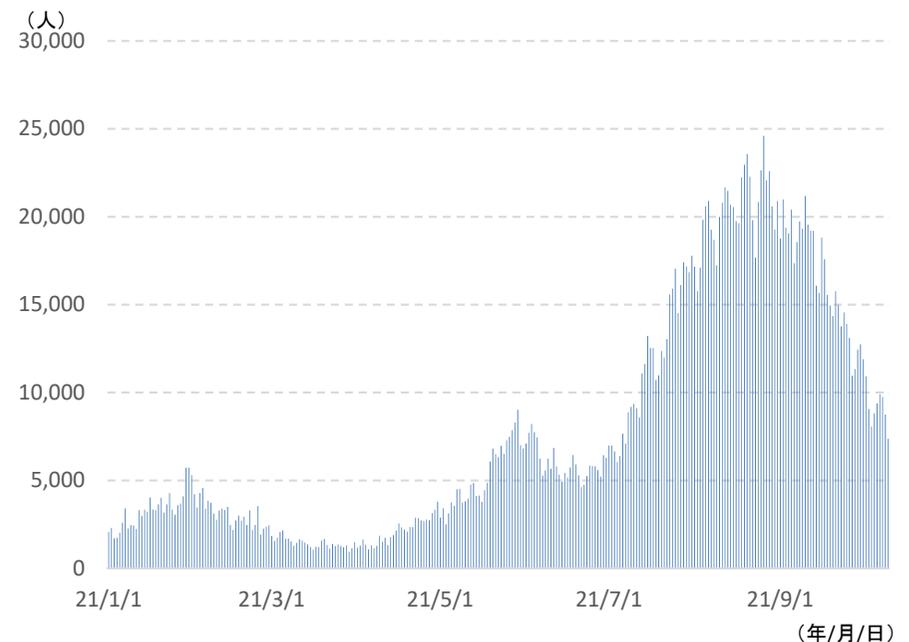
- ベトナム、マレーシア共に新規感染は収束へ
 - ベトナム南部と半島マレーシアの感染収束とワクチン接種加速で、10月に入り段階的な移動規制の緩和が進む
- 厳しいロックダウンの反動で、ベトナム南部で労働者が戻るまでに数カ月必要との指摘も
 - ベトナム縫製協会は、2021年7～9月の社会隔離措置の期間に労働者の帰郷が進んでおり正常化に今後3～5カ月必要と指摘。完全な正常化は旧正月明けになると見込まれる

ベトナムのコロナ新規感染者数



(出所)Our World in Dataより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

マレーシアのコロナ新規感染者数

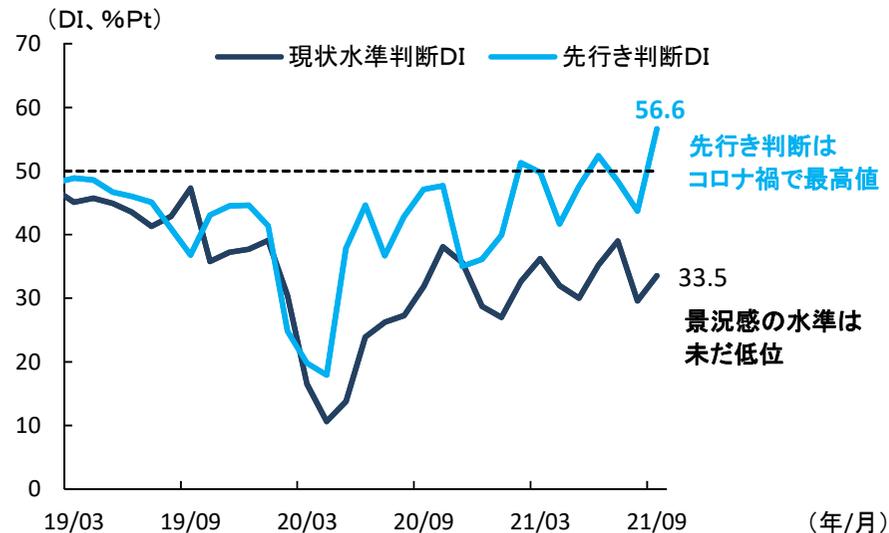


(出所)Our World in Dataより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

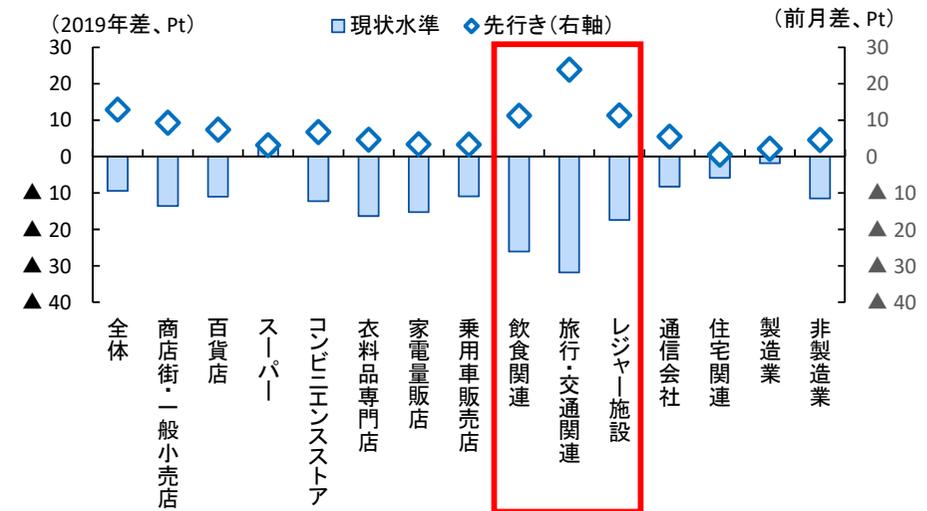
日本：景気の先行き判断は、感染減と緊急宣言解除の発表を受けて大幅に改善

- 9月景気ウォッチャーの現状判断はモビリティ回復により改善したが、水準は未だ低位
 - 現状判断DI(方向性)は前月差+7.4Ptと大幅プラス。一方、景況感の水準を示す水準判断DIは、均してみれば昨年後半以降横ばい状態
- 先行きは、緊急事態宣言・まん防解除により、対人接触サービス中心に景況感の本格的に回復する見通し
 - ただし、製造業や財消費関連業種の改善幅は相対的に小幅。スーパーでは巣籠需要の一服、家電量販店や乗用車販売店、製造業では供給制約が景況感の重石に。財・サービスの揺り戻しが生じる格好

景気ウォッチャー調査：現状水準・先行き判断DI



現状水準・先行き判断DI(業種別)



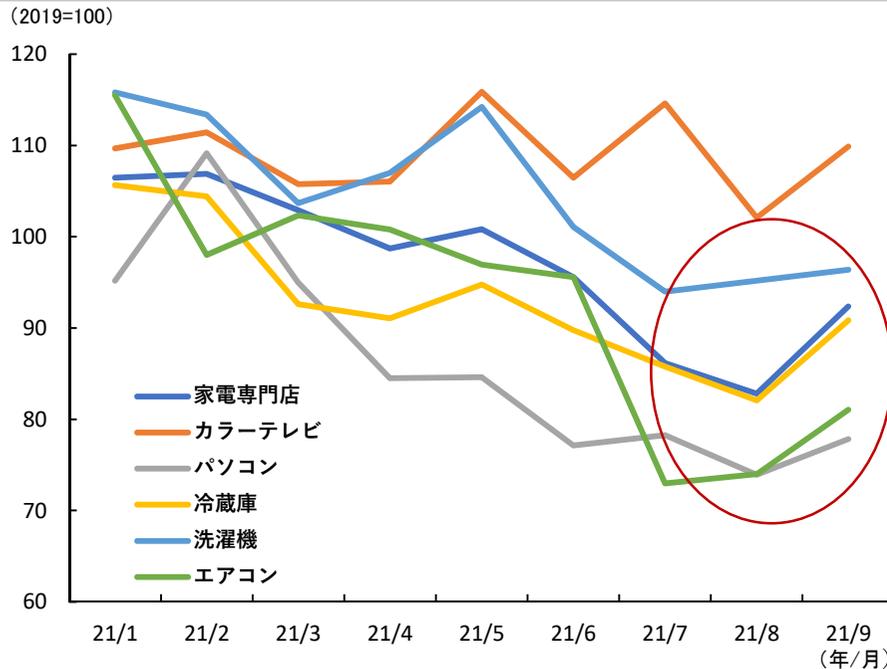
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

(注) 業種別の値はみずほリサーチ&テクノロジーズによる季節調整値
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

日本:財消費ではテレワーク需要に一巡の動き

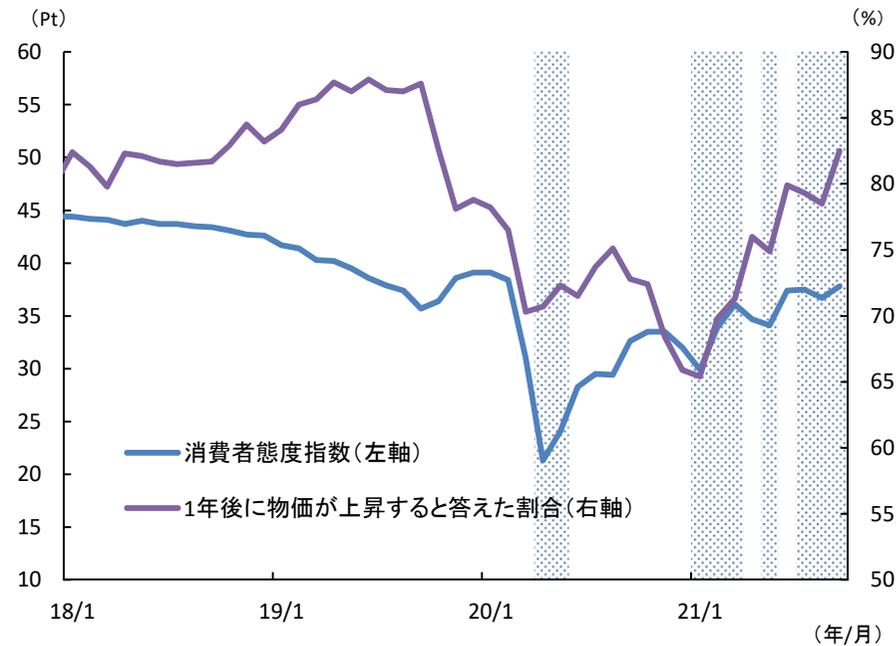
- 減少が続いていた家電販売は9月に底打ちしたが、一部で弱い動きが継続
 - 品目別の内訳では、テレビ、冷蔵庫、エアコンが持ち直しに寄与。一方、パソコンは底這い状態が継続しており、テレワーク需要が一巡していることを示唆。買い替えサイクルを考慮すると、今後も弱い動きが続く見込み
- 消費者の物価上昇予想が高まるなか、消費者マインドには今のところ下振れの動きみられず
 - 今後、ワクチン普及に伴う経済再開でマインドは回復傾向を続ける見込みだが、エネルギー価格等の更なる上昇が水を差す可能性も。消費増税前に物価上昇予想が高まり、消費者態度指数が低下した2019年の再来が懸念

家電のPOSデータ販売金額指数



(注)みずほリサーチ&テクノロジーズによる季節調整値
(出所)経済産業省「METI POS小売販売額指標」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

消費者態度指数と物価上昇予想の推移

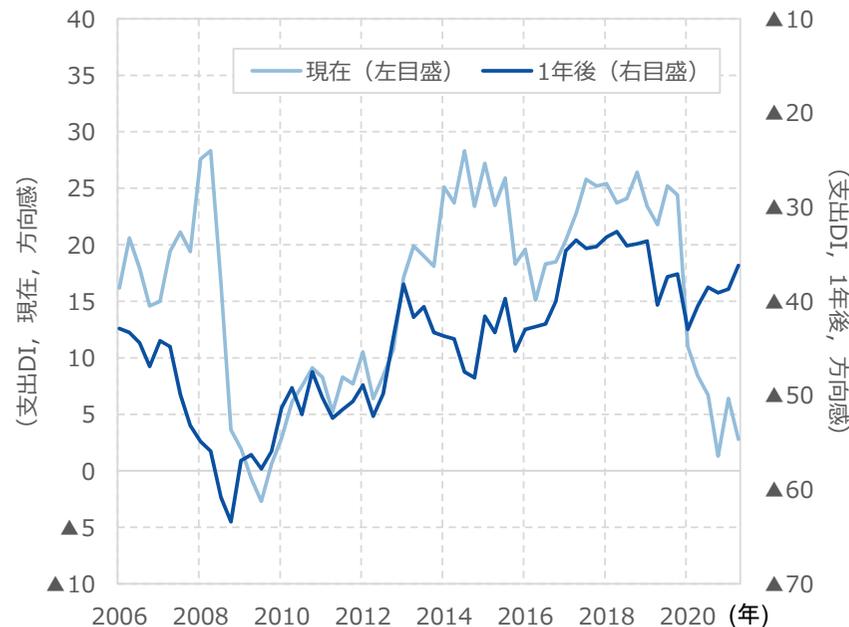


(注)網掛けは緊急事態宣言発令期間。消費者態度指数は季節調整値
(出所)内閣府「消費動向調査」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

日本：消費者の支出判断は足元で悪化。一方、先行きの消費改善期待は健在

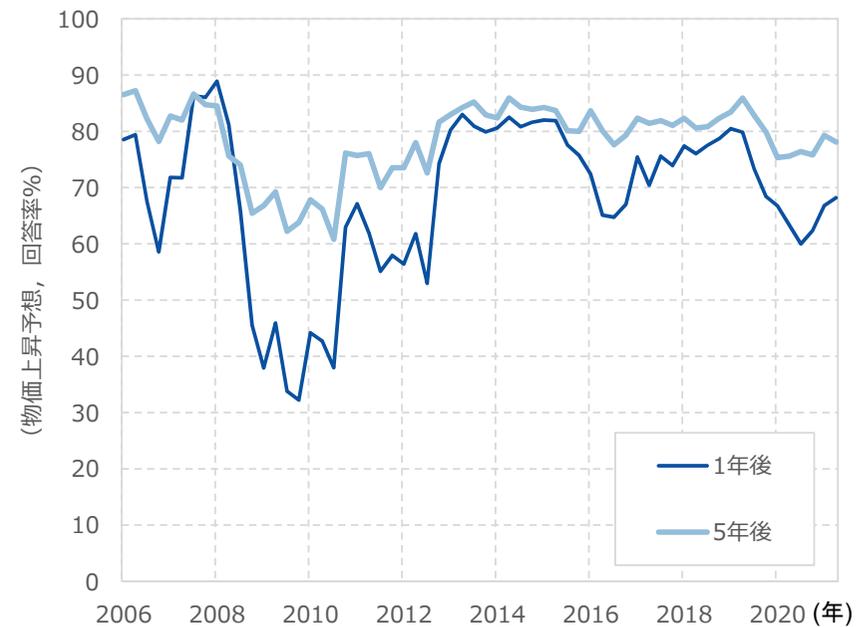
- 9月の「生活意識に関するアンケート調査」(調査期間8/6～9/1)では、足元の支出DIが再び悪化
 - 現在の支出DIは+2.8と再び悪化。調査期間は感染第5波の最悪期にあたり、外出制限が消費低迷につながった模様。一方、1年後の支出DIは▲36.2(6月調査:▲38.7)と改善しており、先行きの消費改善期待は健在
- 消費者の物価上昇予想は3四半期連続で増加
 - 1年後の物価が上昇すると回答した割合は68.2%と、3四半期連続で増加。コロナ禍前に比べまだ水準は低いものの、消費者の物価上昇期待が徐々に強まりつつことを示唆する結果

現在・1年後の支出DI



(注) 支出DIは、前年と比べて支出が増えた(増やす)ー減った(減らす)
 (出所) 日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

1年後・5年後に物価が上がるという回答した割合



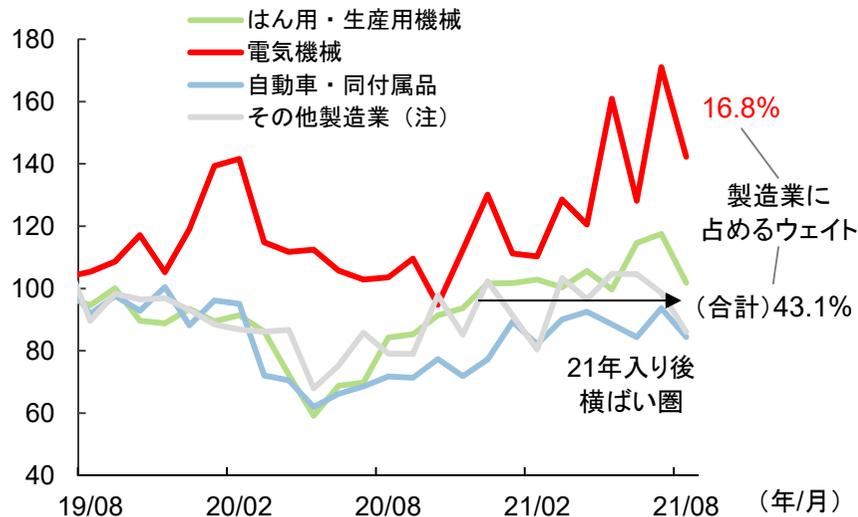
(注) 物価予想DIは、かなり上がる・少し上がるーかなり下がる・少し下がる
 (出所) 日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

日本：年後半の設備投資増加ペースは緩やか。製造業に減速感

- 10～12月期の設備投資は、非製造業の回復後ずれ、製造業の下支え縮小により緩やかな増加にとどまる見通し
 - 8月の機械受注・民需(除. 船舶電力)は前月から減少。うち、製造業は7・8月の平均値が4～6月対比+2.8%と、増加幅が縮小(4～6月:同+12.1%)。非製造業は同▲0.9%(4～6月期同▲1.8%)と減少傾向が継続
 - 製造業の内訳では、半導体関連投資の好調さを背景に電気機械が増加傾向にある一方、はん用・生産用機械や自動車等が21年入り以降横ばい
 - また、建築着工の工事費予定額をみると「工場及び作業場用」が低迷。製造業の建設投資の弱さを示唆する結果

機械受注・業種別受注額(製造業)

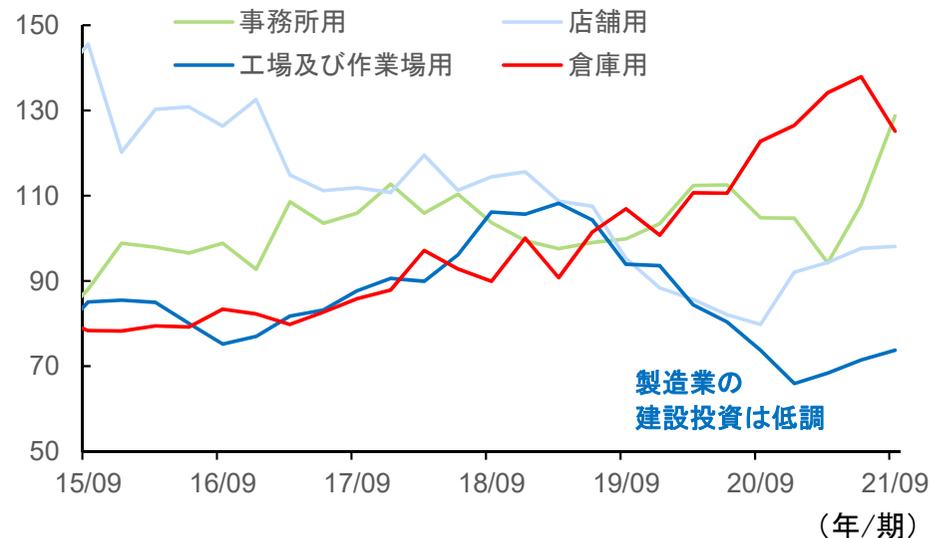
(2019年=100)



(注)その他製造業は、木材・木製品、印刷、プラスチック、ゴム製品等の製造業を含む(出所)内閣府「機械受注統計調査報告」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

建築着工・工事費予定額(用途別)

(2019年=100)



(注)1. みずほリサーチ&テクノロジーズによる季節調整値、後方4四半期移動平均

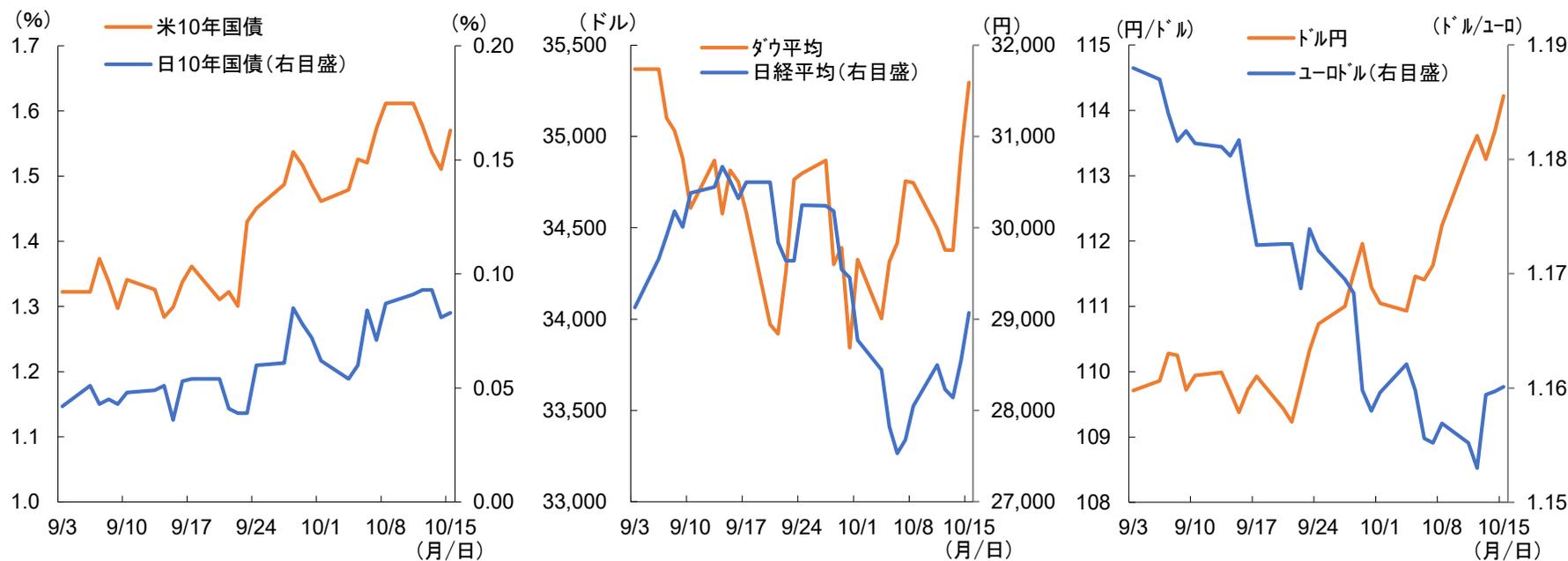
2. 2021年7～9月期は7,8月の平均値

(出所)国土交通省「建築着工統計調査報告」より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

金融市場：先週末にかけて米金利・米株は上昇。ドル円相場は1ドル＝114円台に

- 米10年国債利回りは、堅調な10・30年国債入札や9月生産者物価指数の伸び鈍化等を背景に、一時1.5%台前半まで低下。しかし、週末に9月小売売上高が市場予想を上回ったことから、1.57%まで上昇
- ダウ平均は、市場予想を上回る米企業決算や9月小売売上高を好感して上昇し、約1か月ぶりに35,000ドル台を回復。日経平均は、金融所得課税の先送りや米株上昇を背景に上昇し、約2週間ぶりに29,000円台を回復
- ドル円相場は、米金利上昇に加え、主要国株価の上昇によるリスクオンムードを背景に、対円でドルが買われ、2018年11月以来となる1ドル＝114円台まで円安・ドル高が進展

主要マーケットの推移

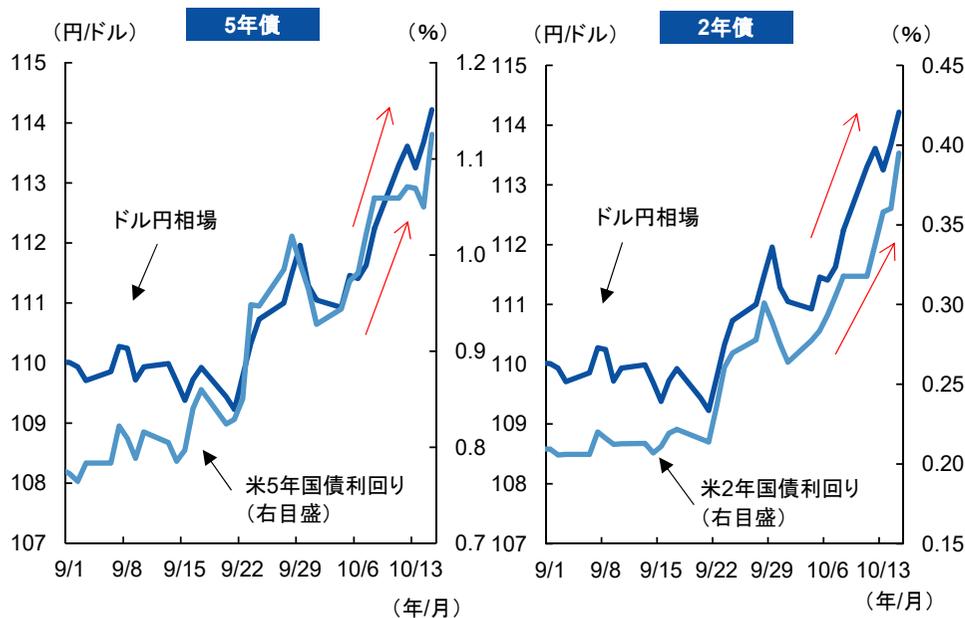


(出所) Bloombergより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

為替:ドル円相場は1ドル=114円と、2018年11月以来の円安・ドル高水準に

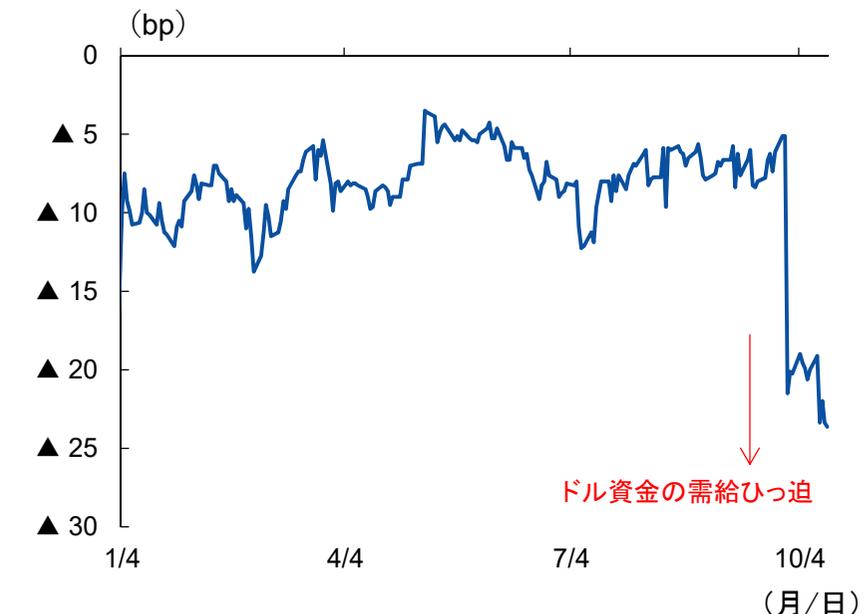
- 9月FOMCの結果とインフレ懸念を背景とした米金利上昇に加え、主要国株価上昇によるリスクオンムードから、ドル円相場は1ドル=114円台まで円安・ドル高に。終値ベースでは、2018年11月以来の水準に
 - 特に短中期金利の上昇に反応し、ドル高が進んだ格好
- ドル資金需要の高まりも、円安・ドル高に拍車をかけている可能性
 - ドル円のベーススワップスプレッドは、2021年9月末以降マイナス幅が急拡大しており、ドル需要の高まりを示唆。年末にかけてもドル調達が高まることが予想され、ドル高圧力に

ドル円相場と米国債利回りの推移



(出所) Bloombergより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

ドル円のベーススワップスプレッド



(注) ベーススワップスプレッドとは、異なる通貨同士を交換する際に、上乗せされる金利のこと。ここでは、マイナスになるほど、ドル需要が強いことを示す

(出所) Bloombergより、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

巻末資料 主要経済指標一覧(実績・先週発表分)

【先週発表分】

| 日付 | 経済指標等 | 今回実績 | 予想 | 前回 | | |
|----------|--|----------------------|-------|---------------------|---------------------|------------------------|
| 10/11(月) | 米 コロンブスデー(祝日) | | | | | |
| 10/12(火) | 日 国内企業物価指数(9月) | 前月比 | +0.3% | +0.2% R↑ | +0.1% | |
| | | 前年比 | +6.3% | +5.8% R↑ | +5.8% | |
| | 韓 韓国金融政策決定会合 | | | | | |
| | ・政策金利は0.75%に据え置き | | | | | |
| 10/13(水) | 日 | M2 前年比 | +4.2% | +4.3% | +4.7% | |
| | | マネーストック(9月速報) M3 前年比 | +3.8% | +3.9% | +4.2% | |
| | | 広義流動性 前年比 | +5.0% | N.A. | +5.2% | |
| | | 機械受注[船舶・電力を除く民需](8月) | 前月比 | ▲2.4% | +1.4% | +0.9% |
| | | | 前年比 | +17.0% | +13.9% | +11.1% |
| | 中 | 輸出総額(9月) | 前年比 | +28.1% | +21.5% | +25.6% |
| | | 輸入総額(9月) | 前年比 | +17.6% | +20.9% | +33.1% |
| | | 貿易収支(9月) | 米ドル | +668億 _{ドル} | +450億 _{ドル} | R↓ +583億 _{ドル} |
| | 米 | FOMC議事録(9/21・22分) | | | | |
| | | 消費者物価指数(9月) | 前月比 | 0.4% | +0.3% | +0.3% |
| | [食品・エネルギーを除く] | 前月比 | 0.2% | +0.2% | +0.1% | |
| | G20(20か国財務大臣・中央銀行総裁会議) ワシントンD.C.(12・13日) | | | | | |
| 10/14(木) | 日 | 設備稼働率(8月) | 前月比 | ▲3.9% | N.A. | ▲3.4% |
| | 中 | 消費者物価指数(9月) | 前年比 | 0.7% | +0.8% | +0.8% |
| | 米 | 生産者物価指数(9月) | 前月比 | 0.5% | +0.6% | +0.7% |
| | [食品・エネルギーを除く] | 前月比 | 0.2% | +0.5% | +0.6% | |
| 10/15(金) | 日 | 第3次産業活動指数(8月) | 前月比 | ▲1.7% | ▲1.2% | ▲0.6% |
| | | 内閣府月例経済報告(10月) | | | | |
| | 雨宮副総裁挨拶(全国信用組合大会) | | | | | |
| | 米 | ミシガン大消費者信頼感指数(10月速報) | | 71.4 | 73.1 | 72.8 |
| | | 小売売上高(9月) | 前月比 | +0.7% | ▲0.2% R↑ | +0.9% |
| | ニューヨーク連銀製造業況指数(10月) | | +19.8 | +25.0 | +34.3 | |

(注) 金曜日17時時点のデータ。予想は、情報ベンダー(Bloomberg、Reuters等)の取りまとめた予想コンセンサス。米国の経済指標は特に断りのない限り季調値。
Rは改定値(R↑:上方修正、R↓:下方修正)。日:日本、米:米国、欧:欧州、英:英国、独:ドイツ、仏:フランス、中:中国、韓:韓国、印:インド、尼:インドネシア、
泰:タイ、比:フィリピン、伯:ブラジル、馬:マレーシア、亜:アルゼンチン
(出所) Bloomberg、Reuters等より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

巻末資料 主要経済指標一覧(予定・今週発表分)

【今週発表分】

| 日付 | 経済指標等 | 予想 | 前回 |
|----------|--------------------------|------------|----------------|
| 10/18(月) | 中 鉱工業生産(9月) 前年比 | +3.8% | +5.3% |
| | 実質GDP(7~9月期) 前年比 | +5.0% | 4~6月期 +7.9% |
| | 米 鉱工業生産指数(9月) 前月比 | +0.2% | +0.4% |
| | 設備稼働率(9月) | 76.5% | 76.4% |
| 10/19(火) | 米 住宅着工件数(9月) 年率 | 161.0万件 | 161.5万件 |
| | 住宅着工許可件数(9月) 年率 | 167.0万件 R↓ | 172.1万件 |
| 10/20(水) | 日 通関収支 原数値 | +484億円 R↑ | ▲6,372億円 |
| | 貿易統計(9月) 輸出 前年比 | +10.5% | +26.2% |
| | 輸入 前年比 | +34.4% | +44.7% |
| | 米 ベージュブック(地区連銀経済報告) | | |
| 10/21(木) | 米 中古住宅販売件数(9月) 年率 | 602万件 | 588万件 |
| | フィラデルフィア連銀製造業況指数(10月) | +24.0 | +30.7 |
| | 尼 インドネシア金融政策決定会合(20・21日) | | |
| 10/22(金) | 日 消費者物価(9月全国) 前年比 | +0.2% | ▲0.4% |
| | [除・生鮮食品] 前年比 | +0.1% | ±0.0% |
| | 欧 ユーロ圏合成PMI(10月速報) | 56.1% | 56.2 |

(注)金曜日17時時点のデータ。予想は、情報ベンダー(Bloomberg、Reuters等)の取りまとめた予想コンセンサス。米国の経済指標は特に断りのない限り季調値。
Rは改定値(R↑:上方修正、R↓:下方修正)。日:日本、米:米国、欧:欧州、英:英国、独:ドイツ、仏:フランス、中:中国、韓:韓国、印:インド、尼:インドネシア、
泰:タイ、比:フィリピン、伯:ブラジル、馬:マレーシア、亜:アルゼンチン
(出所)Bloomberg、Reuters等より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

巻末資料2-1 今月のスケジュール(10・11月)

【10月のスケジュール】

| 国内 | | 米国他 | |
|----|---|-----|--|
| 1 | 日銀金融政策決定会合における主な意見(9/21・22分) 日銀短観(9月調査), 新車販売台数(9月) 労働力調査(8月), 消費動向調査(9月) | 1 | 米 ミシガン大学消費者信頼感指数(9月確報) 個人所得・消費支出(8月), 製造業ISM指数(9月) |
| 2 | | 2 | |
| 3 | | 3 | |
| 4 | | 4 | 米 製造業新規受注(8月) |
| 5 | 黒田日銀総裁挨拶(TCFDサミット2021における挨拶) 消費者物価(9月都区部), 10年利付国債入札 | 5 | 米 貿易収支(8月), 非製造業ISM指数(9月) |
| 6 | 黒田日銀総裁挨拶(第58回日米財界人会議における挨拶) | 6 | |
| 7 | 黒田日銀総裁挨拶(支店長会議) 景気動向指数(8月速報) | 7 | |
| 8 | 家計調査(8月), 景気ウォッチャー調査(9月) 国際収支(8月速報) | 8 | 米 雇用統計(9月) |
| 9 | | 9 | |
| 10 | | 10 | |
| 11 | | 11 | 米 コロンブスデー(祝日) |
| 12 | 企業物価指数(9月), 30年利付国債入札 | 12 | 米 3年国債入札, 10年国債入札 |
| 13 | マネーストック(9月速報), 機械受注統計(8月) | 13 | 米 G20(20か国財務大臣・中央銀行総裁会議) ワシントンD.C.(12・13日), FOMC議事録(9/21・22分) CPI(9月), 連邦財政収支(9月), 30年国債入札 |
| 14 | 設備稼働率(8月), 5年利付国債入札 | 14 | 米 PPI(9月) |
| 15 | 第3次産業活動指数(8月), 内閣府月例経済報告(10月) 雨宮副総裁挨拶(全国信用組合大会) | 15 | 米 ミシガン大学消費者信頼感指数(10月速報) 小売売上高(9月), ニューヨーク連銀製造業業況指数(10月) |
| 16 | | 16 | |
| 17 | | 17 | |
| 18 | | 18 | 米 ネット対米証券投資(8月), 鉱工業生産・設備稼働率(9月) |
| 19 | 20年利付国債入札 | 19 | 米 住宅着工・許可件数(9月) |
| 20 | 貿易統計(9月) | 20 | 米 ページブック(地区連銀経済報告) |
| 21 | | 21 | 米 フィラデルフィア連銀製造業業況指数(10月) 中古住宅販売件数(9月), 景気先行指数(9月) |
| 22 | 消費者物価(9月全国) | 22 | |
| 23 | | 23 | |
| 24 | | 24 | |
| 25 | | 25 | 独 ifo景況感指数(10月) |
| 26 | | 26 | 米 カンファレンスボード消費者信頼感指数(10月) 新築住宅販売件数(9月), 2年国債入札 |
| 27 | 2年利付国債入札 | 27 | 米 耐久財受注(9月), 5年国債入札 |
| 28 | 日銀「経済・物価情勢の展望」(基本的見解) 日銀金融政策決定会合(27・28日) 日銀総裁定例記者会見, 商業動態統計(9月速報) | 28 | 欧米 ECB政策理事会, GDP(7~9月期速報) 7年国債入札 |
| 29 | 鉱工業生産(9月速報), 労働力調査(9月) 消費者物価(10月都区部), 住宅着工統計(9月) 消費動向調査(10月) | 29 | 米 ミシガン大学消費者信頼感指数(10月確報) シカゴPMI指数(10月), 個人所得・消費支出(9月) 雇用コスト指数(7~9月期) |
| 30 | | 30 | |
| 31 | | 31 | 伊 G20サミット(リモート形式)(30・31日) |

(注) 網掛け部分は休場を示す。予定は変更の可能性あります

【11月のスケジュール】

| 国内 | | 米国他 | |
|----|---|-----|--|
| 1 | 新車販売台数(10月), 10年利付国債入札 | 1 | 米 製造業ISM指数(10月) |
| 2 | 日銀金融政策決定会合議事要旨(9/21・22分) | 2 | |
| 3 | 文化の日(日本休場) | 3 | 米 FOMC(2・3日), 製造業新規受注(9月) 非製造業ISM指数(10月) |
| 4 | 10年物価連動国債入札 | 4 | 米 英中銀金融政策委員会(3・4日) 貿易収支(9月), 労働生産性(7~9月期暫定) |
| 5 | 家計調査(9月) | 5 | 米 雇用統計(10月) |
| 6 | | 6 | |
| 7 | | 7 | |
| 8 | 日銀金融政策決定会合における主な意見(10/27・28分) 景気動向指数(9月速報) | 8 | 米 3年国債入札 |
| 9 | 景気ウォッチャー調査(10月) 国際収支(9月速報), 30年利付国債入札 | 9 | 米 PPI(10月), 10年国債入札 |
| 10 | マネーストック(10月速報) | 10 | 米 CPI(10月), 連邦財政収支(10月), 30年国債入札 |
| 11 | 企業物価指数(10月) | 11 | 米 ベテランズデー(祝日) |
| 12 | | 12 | 米 ミシガン大学消費者信頼感指数(11月速報) |
| 13 | | 13 | |
| 14 | | 14 | |
| 15 | 設備稼働率(9月), GDP(7~9月期1次速報) | 15 | 米 ニューヨーク連銀製造業業況指数(11月) |
| 16 | 第3次産業活動指数(9月), 5年利付国債入札 | 16 | 米 ネット対米証券投資(9月), 小売売上高(10月) 鉱工業生産・設備稼働率(10月) |
| 17 | 貿易統計(10月), 機械受注統計(9月) | 17 | 米 住宅着工・許可件数(10月) |
| 18 | 20年利付国債入札 | 18 | 米 フィラデルフィア連銀製造業業況指数(11月) |
| 19 | 消費者物価(10月全国) | 19 | 米 景気先行指数(10月) |
| 20 | | 20 | |
| 21 | | 21 | |
| 22 | | 22 | 米 中古住宅販売件数(10月), 2年国債入札, 5年国債入札 |
| 23 | 勤労感謝の日(日本休場) | 23 | 米 7年国債入札 |
| 24 | | 24 | 米 ミシガン大学消費者信頼感指数(11月確報) FOMC議事録(11/2・3分), GDP(7~9月期暫定) 個人所得・消費支出(10月), 企業収益(7~9月期暫定) 新築住宅販売件数(10月), 耐久財受注(10月) ifo景況感指数(11月) |
| 25 | | 25 | 独 感謝祭(米国休場) |
| 26 | 消費者物価(11月都区部) | 26 | |
| 27 | | 27 | |
| 28 | | 28 | |
| 29 | 商業動態統計(10月速報) | 29 | |
| 30 | 鉱工業生産(10月速報), 労働力調査(10月) 住宅着工統計(10月), 2年利付国債入札 | 30 | 米 シカゴPMI指数(11月) |

(注) 網掛け部分は休場を示す。予定は変更の可能性あります

巻末資料2-2 日本 四半期スケジュール(12~2月)

| | 12月 | 1月 | 2月 |
|----|---|--|--|
| 日本 | 1 法人企業統計調査(7~9月期) 新車販売台数(11月) | 5 新車販売台数(12月) 消費動向調査(12月) | 1 労働力調査(12月) |
| | 2 消費動向調査(11月) 10年利付国債入札 | 7 家計調査(11月) 消費者物価(12月都区部) | 8 家計調査(12月) 国際収支(12月速報) 景気ウォッチャー調査(1月) |
| | 7 家計調査(10月) 景気動向指数(10月速報) 30年利付国債入札 | 11 景気動向指数(11月速報) | 9 マネーストック(1月速報) |
| | 8 GDP(7~9月期2次速報) 景気ウォッチャー調査(11月) 国際収支(10月速報) | 12 景気ウォッチャー調査(12月) 国際収支(11月速報) | 10 企業物価指数(1月) |
| | 9 マネーストック(11月速報) 法人企業景気予測調査(10~12月期) 5年利付国債入札 | 13 マネーストック(12月速報) | 15 設備稼働率(12月) GDP(10~12月期1次速報) |
| | 10 企業物価指数(11月) | 14 企業物価指数(12月) | 16 第3次産業活動指数(12月) |
| | 13 日銀短観(12月調査) 機械受注統計(10月) | 17 機械受注統計(11月) 第3次産業活動指数(11月) | 17 貿易統計(1月) 機械受注統計(12月) |
| | 14 設備稼働率(10月) | 18 設備稼働率(11月) 日銀金融政策決定会合(17・18日) 日銀総裁定例記者会見 日銀「経済・物価情勢の展望」(基本的見解) | 18 消費者物価(1月全国) |
| | 15 第3次産業活動指数(10月) | 20 貿易統計(12月) | 25 消費者物価(2月都区部) |
| | 16 貿易統計(11月) 20年利付国債入札 | 21 消費者物価(12月全国) | 28 鉱工業生産(1月速報) |
| | 17 日銀金融政策決定会合(16・17日) 日銀総裁定例記者会見 | 28 消費者物価(1月都区部) | 28 商業動態統計(1月速報) |
| | 20 資金循環統計(7~9月期速報) | 31 鉱工業生産(12月速報) 商業動態統計(12月速報) | |
| | 24 消費者物価(11月全国) | | |
| | 27 商業動態統計(11月速報) 2年利付国債入札 | | |
| | 28 鉱工業生産(11月速報) 労働力調査(11月) | | |

(注) 予定は変更の可能性があります

(出所) 各種資料より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

巻末資料2-3 米国・欧州 四半期スケジュール(12~2月)

| | 12月 | 1月 | 2月 |
|----|---|--|--|
| 米国 | 1 製造業ISM指数(11月) カンファレンスボード消費者信頼感指数(11月) ペーչジュブック(地区連銀経済報告) 3 雇用統計(11月) 非製造業ISM指数(11月) 7 貿易収支(10月) 労働生産性(7~9月期改訂) 3年国債入札 8 10年国債入札 9 30年国債入札 10 ミシガン大学消費者信頼感指数(12月速報) CPI(11月) 連邦財政収支(11月) 14 PPI(11月) 15 FOMC(14・15日) 小売売上高(11月) ニューヨーク連銀製造業業況指数(12月) 16 鉱工業生産・設備稼働率(11月) 住宅着工・許可件数(11月) フィラデルフィア連銀製造業業況指数(12月) 21 経常収支(7~9月期) 景気先行指数(11月) 22 GDP(7~9月期確定) 企業収益(7~9月期改訂) 中古住宅販売件数(11月) 23 ミシガン大学消費者信頼感指数(12月確報) 個人所得・消費支出(11月) 新築住宅販売件数(11月) 耐久財受注(11月) 27 2年国債入札 28 5年国債入札 29 カンファレンスボード消費者信頼感指数(12月) 7年国債入札 31 シカゴPMI指数(12月) | 5 FOMC議事録(12/14・15分) 6 貿易収支(11月) 11 3年国債入札 12 連邦財政収支(12月) 10年国債入札 13 30年国債入札 14 ミシガン大学消費者信頼感指数(1月速報) 鉱工業生産・設備稼働率(12月) 24 2年国債入札 25 5年国債入札 26 FOMC(25・26日) 27 7年国債入札 GDP(10~12月期速報) 28 ミシガン大学消費者信頼感指数(1月確報) 個人所得・消費支出(12月) 31 シカゴPMI指数(1月) | 8 貿易収支(12月) 10 連邦財政収支(1月) 11 ミシガン大学消費者信頼感指数(2月速報) 16 FOMC議事録(1/25・26分) 鉱工業生産・設備稼働率(1月) 24 GDP(10~12月期暫定) 25 ミシガン大学消費者信頼感指数(2月確報) 個人所得・消費支出(1月) 28 シカゴPMI指数(2月) |
| 欧州 | 16 ECB政策理事会 英中銀金融政策委員会(15・16日) | 20 ECB政策理事会 | 3 英中銀金融政策委員会(2・3日) |

(注) 予定は変更の可能性があります

(出所) 各種資料より、みずほリサーチ&テクノロジーズ作成

| | | |
|--------|----------------------|--|
| ・米国経済 | 松本惇 小野寺莉乃 | atsushi.matsumoto@mizuho-ir.co.jp rino.onodera@mizuho-ir.co.jp |
| ・欧州経済 | 山本武人 矢澤広崇 | takehito.yamamoto@mizuho-ir.co.jp hirotaka.yazawa@mizuho-ir.co.jp |
| ・新興国経済 | 西川珠子 田村優衣 | tamako.nishikawa@mizuho-ir.co.jp yui.tamura@mizuho-ir.co.jp |
| ・中国経済 | 伊藤秀樹 月岡直樹 | hideki.ito@mizuho-ir.co.jp naoki.tsukioka@mizuho-ir.co.jp |
| ・アジア経済 | 酒向浩二 稲垣博史 越山祐資 | koji.sako@mizuho-ir.co.jp hiroshi.inagaki@mizuho-ir.co.jp yusuke.koshiyama@mizuho-ir.co.jp |
| ・日本経済 | 酒井才介 川畑大地 | saisuke.sakai@mizuho-ir.co.jp daichi.kawabata@mizuho-ir.co.jp |
| ・コロナ関連 | 服部直樹 | naoki.hattori@mizuho-ir.co.jp |
| ・金融市場 | 川本隆雄 坂本明日香 | takao.kawamoto@mizuho-ir.co.jp asuka.sakamoto@mizuho-ir.co.jp |
| ・資料全般 | 石角勉 | tsutomu.ishikado@mizuho-ir.co.jp |

★次回の発刊は、10月25日(月)を予定しております

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。なお、当社は本情報を無償でのみ提供しております。当社からの無償の情報提供をお望みにならない場合には、配信停止を希望する旨をお知らせ願います。